



公益財団法人 甲南会

2025年度 事業報告書及び附属明細書



CONTENTS

第1. 法人の概要

1. 基本理念	2
2. 甲南会の沿革	2
3. 組織・事業体系	2
4. 役員等一覧	3
5. 評議員会・理事会の開催	4
6. 病床数、標榜科目、職員数	5

第2. 各施設の概要

1. 甲南医療センター	6
2. 六甲アイランド甲南病院	22
3. 甲南介護老人保健施設	25
4. 甲南訪問看護ステーション	26
5. 甲南居宅介護支援事業所	26
6. 事務局	27

第3. 事業の概要

1. 公益目的事業の概要	28
2. 2025年度決算概況	42
3. 附属明細書	43

第1. 法人の概要

1. 基本理念

"人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん"

創立者 平生鈺三郎



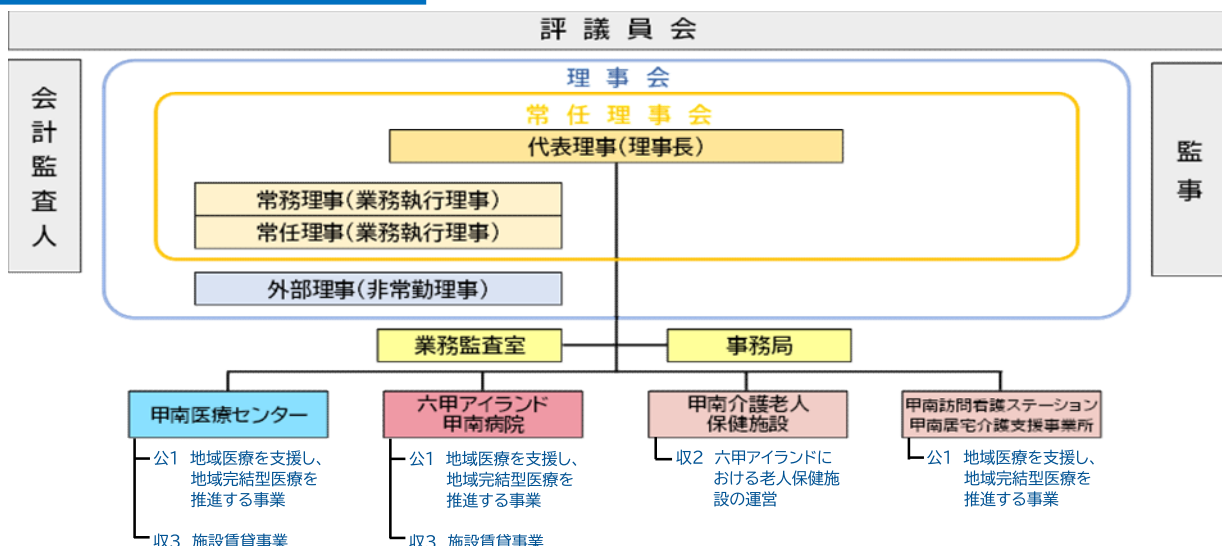
2. 甲南会の沿革

- 1934年(昭和9) 6月17日、甲南病院開院、看護婦養成所開設
- 1945年(昭和20) 第二次世界大戦終戦 11月、創立者平生鈺三郎死去(享年80歳)
甲南高等学校、甲南初等学校、甲南病院による合同葬を執り行う
- 1955年(昭和30) 准看護婦養成所発足
- 1970年(昭和45) 甲南病院附属高等看護学校開校
- 1974年(昭和49) 労働組合結成
- 1992年(平成4) 4月、六甲アイランド病院開院 法人事務局を設置
- 1995年(平成7) 1月17日、阪神・淡路大震災で被災
- 2000年(平成12) 国立加古川病院の移譲により、12月加古川病院開院
- 2001年(平成13) 10月、甲南訪問看護ステーション開設 11月、甲南介護老人
保健施設及び甲南居宅介護支援事業所を開設
- 2008年(平成20) 看護専門学校を閉校し、甲南女子大学へ継承
- 2012年(平成24) 「財団法人」から「一般財団法人」へ改称
- 2013年(平成25) 新甲南病院建設事業計画(Konan事業ビジョン2020)開始
- 2018年(平成30) 11月、甲南大学・甲南女子大学・神戸薬科大学・東灘区役所と共同し
医療人材育成を目的とした『東灘次世代医療人材育成コンソーシアム』を設立
- 2019年(令和元) 甲南会新キャラクター「ドクターこうにゃあ」と「MINAMIちゃん」が誕生
- 2020年(令和2) 4月、兵庫県より公益財団法人として認定を受ける
運営法人名を『一般財団法人甲南会』から「公益財団法人甲南会」に改称
- 2022年(令和4) 7月、新甲南病院建設事業計画(Konan事業ビジョン2020)完了
- 2024年(令和6) 3月、甲南加古川病院廃止(4月、医療法人伯鳳会に事業譲渡)



マスコットキャラクター
ドクターこうにゃあとMINAMIちゃん

3. 組織・事業体系



4. 役員等一覧

2026年3月末日現在

役 職	氏 名	就任日	略 歴
評議員	山田 積	2013(平成25)年6月18日	新晃工業株式会社 元取締役
評議員	上塚 一也	2013(平成25)年6月18日	株式会社イチケン 元代表取締役社長
評議員	平野 欽一郎	2014(平成26)年6月20日	学校法人甲南学園 専務理事
評議員	下村 雅一	2015(平成27)年6月23日	学校法人甲南女子学園 顧問(常任)
評議員	甲賀 淳	2016(平成28)年6月28日	東京海上日動火災保険株式会社 元広島支店長
評議員	廣岡 俊司	2016(平成28)年6月28日	一般財団法人住吉学園 前監事
評議員	笠井 裕	2024(令和6)年6月19日	学校法人甲南学園甲南小学校 事務長
代表理事	具 英成	理事:2017(平成29)年6月29日 代表理事:2020(令和2)年12月13日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長
常務理事	三枝 康宏	理事:2015(平成27)年6月23日 常務理事:2020(令和2)年12月13日	公益財団法人甲南会 六甲アイランド甲南病院 参与 ※
常任理事	山田 浩幸	2019(平成31)年6月26日	公益財団法人甲南会 六甲アイランド甲南病院 院長 ※
常任理事	堀口 美由紀	2022(令和4)年6月22日	公益財団法人甲南会 看護部 統轄看護部長
常任理事	高尾 信太郎	2023(令和5)年6月21日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長代行
理 事	上村 多恵子	2012(平成24)年4月1日 ※設立時	京南倉庫株式会社 代表取締役社長 京南物流株式会社 代表取締役社長
理 事	竹田 統	2015(平成27)年6月23日	一般財団法人住吉学園 理事長
理 事	秋元 典子	2022(令和4)年6月22日	学校法人甲南女子学園 甲南女子大学 学長
理 事	堀田 博	2023(令和5)年6月21日	神戸大学 名誉教授
理 事	錦織 千佳子	2024(令和6)年6月19日	兵庫県赤十字血液センター所長
監 事	陰地 弘和	2012(平成24)年4月1日 ※設立時	公認会計士・税理士、陰地会計事務所 所長

※2026年4月1日 就任

役 職	氏 名	就任日	所在地
会計監査人	RSM清和監査法人	2013(平成25)年6月18日	神戸市中央区海岸通8番神港ビルヂング2

5. 評議員会・理事会の開催

(1) 評議員会

ア 2025年度定時評議員会	2025年6月18日開催
第1号議案	評議員に関する件
第2号議案	理事に関する件
第3号議案	2024年度財務諸表等及び財産目録の件
第4号議案	定款の一部改正の件

(2) 理事会

ア 2025年度第1回理事会	2025年6月3日開催
第1号議案	評議員に関する件(評議員会決議事項)
第2号議案	理事に関する件(評議員会決議事項)
第3号議案	2024年度事業報告書及び附属明細書の件
第4号議案	2024年度財務諸表等及び財産目録の件(評議員会決議事項)
第5号議案	2025年度夏期賞与支払いの件
第6号議案	定款の一部改正の件(評議員会決議事項)
第7号議案	2025年度定時評議員会招集の件
第8号議案	2025年度定期昇給の件
イ 書面理事会	2025年7月4日付提案
第1号議案	2025年度会計監査人の報酬に関する件
第2号議案	常務理事及び常任理事選定の件
ウ 2025年度第2回理事会	2025年11月19日開催
第1号議案	2025年度上半期収支状況及び2025年度冬期賞与支払いの件
エ 2025年度第3回理事会	2026年3月18日開催
第1号議案	2025年度収支見込の件
第2号議案	2026年度事業計画(収支計画)の件
第3号議案	2026年度資金調達及び設備投資計画の件

6. 病床数、標榜科目、職員数

2026年3月末日の病床数、標榜科目、職員数は、下表のとおりとなっております。

施設名	許可病床	稼働病床	職員数(非常勤)	
甲南医療センター	461	419	955	(39)
六甲アイランド甲南病院	198	198	338	(37)
甲南介護老人保健施設	-	-	64	(9)
甲南訪問看護ステーション	-	-	15	(4)
甲南居宅介護支援事業所	-	-	1	0
事務局	-	-	16	0
合計	659	617	1,389	(89)

施設名	標榜科目 ()は休診中
甲南医療センター	循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌・総合内科、腎臓内科、 (リウマチ内科)、脳神経内科、腫瘍・血液内科、緩和ケア内科、放射線科、小児科、 皮膚科、精神科、消化器外科、乳腺外科、(心臓血管外科)、呼吸器外科、整形外科、 リハビリテーション科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、 形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科
六甲アイランド甲南病院	循環器内科、消化器内科、内科、脳神経内科、腎臓内科、放射線科、小児科、皮膚科、 精神科、外科、(心臓血管外科)、(呼吸器外科)、整形外科、リハビリテーション科、 (脳神経外科)、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、(形成外科)、(麻酔科)、
甲南介護老人保健施設	定員：入所80名、通所30名
甲南訪問看護ステーション	訪問看護
甲南居宅介護支援事業所	居宅介護支援

第2. 各施設の概要

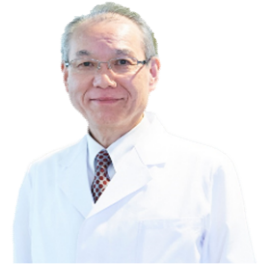
1. 甲南医療センター

基本 理念

人の手で接する最善の医療を追求し実現します。
やがて創設100年を迎える基幹病院として公益と継続を重視し、
全職員にて新たな歴史を紡ぎ、誇り高き病院を創ります。

【行動指針】

1. 心技一体で心の深くに届く高質の医療を実践します。
2. 不断の救急医療を全職員で全うします。
3. 地域の医療機関、大学、行政との連携を強化し、総合力のある人材を育成し、絶えず進化する医療を構築します。
4. 最新機器を整備し、緑と静穏な療養環境のもと、安心、安全なチーム医療を実現します。
5. 患者・家族の尊厳を守り、個人情報を守ります。



具 英成 院長

院長 挨拶

甲南医療センターは、1934年(昭和9年)に旧甲南病院として創立され、以来、公的医療機関のない神戸市東灘区の地域医療を担い、営利本位に陥らず、全ての患者が名医の治療や手術が受けられる、患者本位の医療を追求する病院を目指して参りました。次の100年に向けて、これからも地域の皆様のご期待に添えるよう、最高の医療を届けるためにどのように変貌したか、引き続きご紹介いたします。

新たな創生を目指して2019年10月にⅠ期工事を完工し、脳神経外科、泌尿器科、循環器内科、小児科、産婦人科などの診療科の充実を図り、380床の急性期病院として稼働しました。2022年2月にはⅡ期工事を完工し、461床の急性期病床を有する地域屈指の総合病院として装いを新たにしました。

2022年のグランドオープンでは、旧甲南病院発祥の地である鴨子ヶ原に最新最高の設備を備えた新病院が完工しました。このようなハード面の充実とともに、優秀な医療人材を集約し育成することを通じて、地域へのさらなる貢献を目指します。

近年、医療では遺伝子工学、AIやロボットなど様々な技術革新が進んでいます。しかし、技術が高度になり時代が変われど、人の手で接する心の深くに届く医療を実践すべく、職員一同が力を合わせ新病院へのご期待に沿えるよう臨んで参ります。

甲南会は心技一体、質の高い医療、人の手で心の深くに届く医療を今後も間断なく実践して参ります。また、本会は2020年度からは公益財団法人として装いを新たに地域医療に邁進しています。神戸市の東部において急性期医療を担う甲南医療センター、回復後日常生活へ戻るための支援を担う六甲アイランド甲南病院、2病院がシームレスに連携して役割分担をさらに強めて、地域の皆様の健康を守ります。

地域の皆様から高い評価が頂けるよう、誇り高き病院創りを進めて参ります。

皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

特色

東灘区には、公的医療機関がなく、古くから地域医療を旧甲南病院が担っていました。2019年には、甲南医療センターに改称し、急性期医療に特化した施設に生まれ変わり、2022年春には、全ての施設・設備が整い、次の100年に向けた新たな歴史が始まりました。また、ハード面だけでなく、高台立地を凌駕する高度な医療水準と人の手で接する温かい心を兼ね備えた最善の医療を推進し、地域の皆様に最高の医療を実現してまいります。

甲南医療センターは、これからもすべての人に健康と福祉をお届けしながら、住み続けられる街づくりに貢献して参ります。

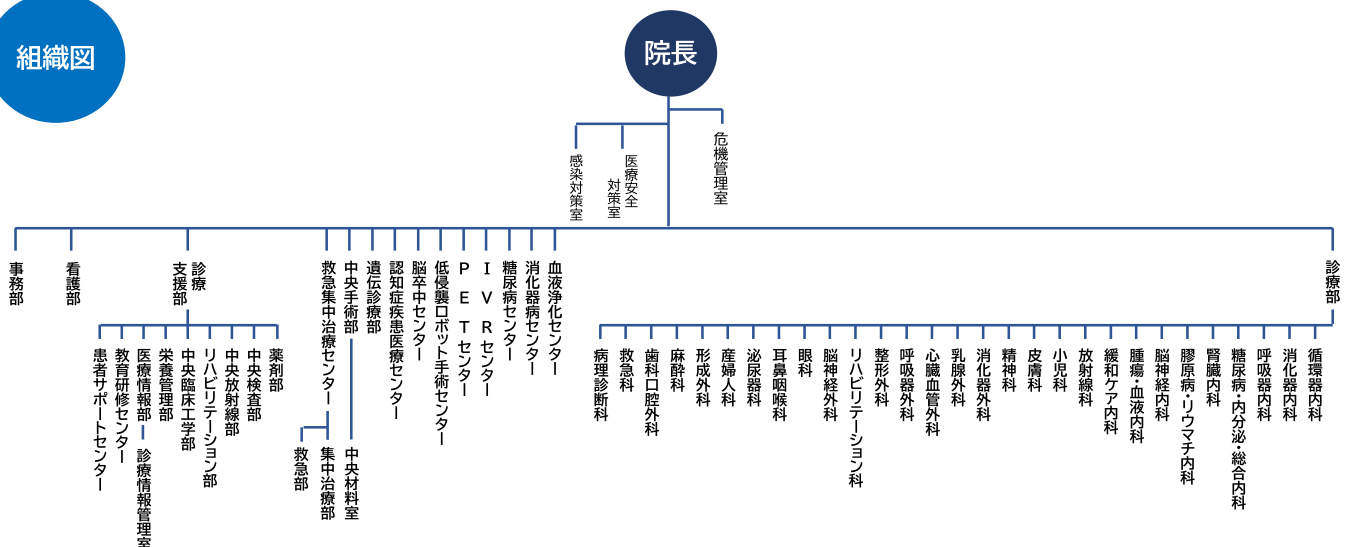
沿革

1934年(昭和9)	病院開設(118床)、6月17日に開院式、看護婦養成所開設
1972年(昭和47)	西館増築、病床数277床へ
1979年(昭和54)	神戸市二次救急病院指定
1982年(昭和57)	南館新設、病床数298床へ
1984年(昭和59)	開院50周年記念式典
1987年(昭和62)	東館新設、病床数400床へ
1995年(平成7)	阪神・淡路大震災で被災
2004年(平成16)	医師臨床研修病院指定
2006年(平成18)	病院機能評価(Ver.4)認定
2009年(平成21)	DPC適用病院
2011年(平成23)	病院機能評価(Ver.6)認定
2013年(平成25)	新甲南病院建設事業(Konan事業ビジョン2020)開始
2015年(平成27)	緩和ケア病棟設置、病床数380床へ
2016年(平成28)	病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)認定
2019年(令和元年)	甲南医療センター建設Ⅰ期工事完成
2020年(令和2)	地域医療支援病院認可
2021年(令和3)	病院機能評価(3rdG:Ver2.0)認定
2022年(令和4)	甲南医療センター建設Ⅱ期工事完成、病床数461床へ

概要

- 所在地 神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
- TEL 078-851-2161
- 創立 1934年6月17日
- 土地面積 21,489.57㎡
- 建物 本館 地下1階地上7階 延29,204.87㎡
南館 地下2階地上3階 延 5,986.97㎡
東館 地下1階地上3階 延 3,915.72㎡
管理棟 地上5階 延 3,751.98㎡
- 病床数 461床(一般病床)
- 職員数 医師175名、看護部門485名、診療技術部門182名
事務部門113名 計955名(2026年3月31日現在)
- 診療科目 循環器内科/消化器内科/呼吸器内科/糖尿病・内分泌・総合内科/
腎臓内科/リウマチ内科/脳神経内科/腫瘍・血液内科/
緩和ケア内科/放射線科/小児科/皮膚科/精神科/消化器外科/
乳腺外科/心臓血管外科/呼吸器外科/整形外科/
リハビリテーション科/脳神経外科/眼科/耳鼻咽喉科/泌尿器科/
産婦人科/形成外科/麻酔科/歯科口腔外科/救急科/病理診断科/
消化器病センター/糖尿病センター/血液浄化センター/
認知症疾患医療センター/IVRセンター/PETセンター/
低侵襲ロボット手術センター
- センター
- 外来診療 受付時間：8時30分～11時30分
診療時間：9時00分～17時00分
- 入院基本料施設基準 急性期一般入院料Ⅰ(406床)/緩和ケア病棟入院料Ⅰ(22床)/
特定集中治療室管理料3(8床)/小児入院医療管理料3(25床)
- 救急告示 有(二次救急)
- 施設認定 地域医療支援病院
- 医師臨床研修 基幹型臨床研修病院(定員9名) ※2026年度(2025年募集)から定員1名増

組織図



◆ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均 入院 患者数	2021	317	308	320	314	320	306	311	315	295	311	308	349	315	114,858
	2022	341	350	329	319	316	338	332	341	341	355	346	331	336	122,820
	2023	319	351	348	355	381	352	342	363	336	373	364	371	354	129,808
	2024	361	332	333	360	367	346	347	349	358	377	381	371	357	130,175
	2025	362	356	357	372	355	352	346	360	348	363	373	366	359	131,086
1日平均 外来 患者数	2021	767	785	730	800	774	818	804	815	850	819	797	826	798	193,177
	2022	821	844	787	827	785	875	854	854	872	835	831	860	836	203,200
	2023	850	853	823	878	819	843	846	851	866	867	864	876	852	207,109
	2024	822	823	820	808	789	852	833	823	847	875	847	854	832	202,135
	2025	828	832	826	827	826	865	844	880	891	906	875	868	855	206,793
新入院 患者数	2021	969	916	978	983	967	947	937	977	904	898	802	1004	940	11,282
	2022	919	1028	965	957	941	1024	986	1031	1062	1008	965	1091	998	11,977
	2023	1004	1093	1099	1132	1172	954	1081	1079	976	1056	988	987	1052	12,621
	2024	1016	1046	1009	1220	1116	1026	1125	1126	1109	1064	1059	1080	1083	12,996
	2025	1114	1028	1120	1248	1044	1094	1152	1035	1104	1160	980	1117	1100	13,196
中央手術室 における 手術件数	2021	421	369	415	414	414	433	448	465	429	371	363	510	421	5,052
	2022	431	417	462	408	445	438	464	455	466	455	442	502	449	5,385
	2023	442	438	471	427	464	405	473	480	407	435	424	436	442	5,302
	2024	447	422	401	497	471	430	493	481	473	461	436	483	458	5,495
	2025	483	441	449	551	422	431	490	423	491	483	420	497	465	5,581

診療科紹介

糖尿病・内分泌・総合内科

▶ **これからの展開** 糖尿病診療において、次々と新たな薬剤が登場し、テクノロジーを駆使した新たな機器によって、オーダーメイド治療を行うことが重要である。持続血糖モニターCGM/FGM、持続皮下インスリン注入CSII、その利点を合わせたSAP治療等、これらの機器を使用することにより、患者の状態を詳細に解析し適切に対応することができるようになってきた。当科を受診された患者に対しても、最新の情報を提供し、適切に対応することによって、今まで以上に細かく病態把握を行い、その患者に合った治療法の選択を行えるように努めている。

▶ **得意領域の深化** 当院では糖尿病センターとして、腎臓内科、循環器内科、眼科、脳神経外科、整形外科、形成外科等の糖尿病に関連する多くの診療科と連携をとることにより、糖尿病合併症に対してもきめ細やかな対応に取り組むことが可能となっている。また日本糖尿病学会指導医3名、専門医4名に加えて、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、公認心理師を始めとする医療スタッフによるチーム医療によって糖尿病診療の質を上げるよう努力している。2025年より減量外来を開設し、院内紹介のみならず他施設からの紹介も増加している。減量外来以外でも常時当科において対応できる体制を整えている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	40.9	37.6	33.8	32.4	35.9	35.2	29.5	29	24.7	27.1	30.4	36.6	32.8	11,957
	2022	22.8	23.9	24.4	22.6	25.2	22.3	20.8	24.7	29.5	25.5	19.3	20.3	23.5	8,567
	2023	17.1	22.5	20.5	23.9	31.5	32.1	17.3	22.8	18.8	22.5	27.9	30.7	24.0	8,767
	2024	25.1	23.9	20.2	23.2	19.8	17.3	16.7	17.8	17.5	21.8	17.9	22.5	20.3	7,422
	2025	19.2	16.8	21.6	25.7	21.5	20.4	18.4	19	17.7	20.6	20.3	22.9	20.3	7,422
1日平均外来患者数	2021	52.4	61.1	52	56.6	53.4	58.3	56.7	55	56.8	61.7	54.5	52.3	55.9	13,493
	2022	51.6	53.5	49.8	56.2	50.7	54.8	54	52.5	57.6	55.9	55.6	52.7	53.7	13,033
	2023	51.6	52.1	52	55.5	50.2	53.7	54.8	53.9	56.5	53.8	55.8	55.1	53.8	13,045
	2024	49.5	51.7	51.1	50.5	49	52.2	50.2	49.9	51.5	57.2	52.1	50.3	51.3	12,439
	2025	54	53.4	51.1	54.5	53.5	55	54.9	55.7	57.4	60.9	55.6	56.4	55.2	13,343
新入院患者数	2021	85	86	76	71	79	91	63	57	48	60	67	80	71.9	863
	2022	42	56	51	53	50	49	46	66	90	44	41	42	52.5	630
	2023	38	55	49	67	73	44	35	45	38	49	53	47	49.4	593
	2024	46	45	37	55	46	43	31	35	47	41	36	45	42.3	507
	2025	32	32	45	45	40	43	34	37	39	32	35	33	37.3	447

腫瘍・血液内科

▶ **これからの展開** 近年、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の発展により、がん治療は「臓器別」から「臓器横断的」へと大きく変化している。血液領域では、二重特性抗体をはじめとする新規作用機序の薬剤が登場し、これまで経験の少なかった副作用への理解と対応が求められている。今後、これらの薬剤は固形腫瘍・血液腫瘍の双方で適応が拡大し、抗がん剤治療はさらに複雑化・高度化していくと考えられる。一方で、がんの早期発見や治療成績の向上に伴い、患者が「治療と仕事を両立する」ことが社会的にも重要なテーマとなっている。外来・入院を含めた治療スケジュールの柔軟な調整が必要となり、患者本人や家族、職場が治療内容や副作用を正しく理解することも欠かせない。

こうした背景から、医師だけでなく、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養、医療ソーシャルワーカーなど多職種が連携し、患者の生活背景や価値観を踏まえた包括的な支援を行うことがこれまで以上に重要となる。治療の高度化と患者の生活支援の両面に対応するために、医療従事者間の密なコミュニケーションと協働体制を構築し、患者にとって最適な治療と生活の両立を支えていく必要がある。

▶ **得意領域の深化** がん医療は、遺伝子情報にもとづく個別化治療の進展により大きく変化している。免疫チェックポイント阻害薬の併用療法をはじめ、治療選択は年々増加しており、標準治療が終了した後も遺伝子検査によって新たに効果が期待できる薬剤を選択できる場合がある。近年では固形腫瘍だけでなく造血器腫瘍に対しても遺伝子パネル検査が保険適用となり、より幅広い患者に個別化治療を提供できる環境が整いつつある。一方で、遺伝子検査は必ずしも患者が望む明確な結果が得られるとは限らず、場合によっては家族の疾患リスクに関わる情報が含まれることもある。そのため、検査前後の十分な説明と心理的サポートが不可欠である。当院では神戸大学医学部附属病院と密に連携し、遺伝子パネル検査を適切に活用しながら、患者に寄り添った情報提供を行っている。さらに、新規治療薬や支持療法の進歩により、高齢者を含む幅広い年齢層で抗がん剤治療の適応が拡大し、予後改善が期待できるようになってきた。治療の高度化に伴い、患者が適切な情報を得て治療を選択できるよう、年齢や背景に応じた丁寧な説明と啓発活動が求められる。治療選択、生活支援、心理的ケアを含めた包括的なサポートを提供し、患者が安心して個別化治療を受けられる環境を整えていくことが、今後ますます重要となる。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	16.4	16.4	19.2	20.6	16.9	17	22.3	18.9	19.6	17	15.9	18.4	18.2	6,659
	2022	26.2	24.7	22.5	17.2	18.3	18.9	16.6	16.9	15.9	22.3	18.4	18.9	19.7	7,204
	2023	18.3	13.8	13.9	15.7	26	22.4	20.3	16.9	19.8	22.2	23.3	23.8	19.7	7,207
	2024	26.4	19	21.6	26.9	23.2	21.6	18.9	18.8	17	19.5	16.9	16.3	20.5	7,484
	2025	22.5	23.4	21.3	19.9	17.8	19.6	17.5	18.5	19.5	26	21.3	17.9	20.4	7,453
1日平均外来患者数	2021	38.9	38.1	36.8	37	36.1	38.7	35.7	39	41.1	35.5	39.6	38.2	37.9	9,161
	2022	36.7	38.7	37.9	38.6	34.3	42.3	39.5	39.5	42	38	39.7	39	38.8	9,429
	2023	39.5	35.4	39.1	39.7	36.3	37.7	37.3	40	42.1	39.6	41.8	41.3	39.2	9,502
	2024	40.2	41.7	40.7	39	38.4	41.2	39.6	40.3	41.1	40.4	43.1	40.6	40.5	9,835
	2025	40.9	40.7	41	40.2	40.6	44.4	46.6	46.3	47.7	45.8	47.3	45	43.9	10,597
新入院患者数	2021	39	37	40	46	43	46	51	52	45	49	40	50	44.8	538
	2022	54	59	67	51	59	53	49	53	50	55	45	56	54.3	651
	2023	50	42	52	59	84	45	45	48	35	61	56	61	53.2	638
	2024	67	59	55	74	65	59	53	56	55	58	53	55	59.1	709
	2025	70	65	65	71	63	72	75	65	74	77	61	71	69.1	829

消化器内科

▶ **これからの展開** 東灘区における地域医療の拠点として、消化管出血や胆嚢結石性胆管炎をはじめとする消化器救急疾患の受け入れ・対応体制を今後さらに強化していく。近年、地域内で増えつつある内視鏡クリニックや消化器内科クリニックの先生方との緊密な病診連携を軸とし、入院適応となる内視鏡治療対象疾患、胆膵疾患、肝臓疾患などの専門領域における受け入れ体制をいっそう強固なものにする。

脂肪性肝炎を含む慢性肝炎や肝硬変に対しては、客観的な診断のもときめ細かな治療を実践し、肝疾患拠点病院としての活動を推進する。また、消化器癌の治療においては、当院の強みである「診療科間の垣根の低さ」を最大限に生かし、腫瘍内科や消化器外科と緊密に連携。診断から治療、その後のフォローに至るまで、シームレスで迅速な医療を提供する。

▶ **得意領域の深化** 当科では、消化管悪性腫瘍に対する確実かつ低侵襲な内視鏡治療を実践している。術前の正確な範囲診断に基づき、瘢痕症例などの困難例にも対応し、部位や症例に応じて全身麻酔下での施行や消化器外科との合同手術を行っている。胆膵領域においては、熟達した技術を要するEUSやERCP関連手技を網羅し、術後再建腸管症例に対してもダブルバルーン小腸内視鏡を用いてアプローチ可能。また、がん性疼痛や狭窄に対する消化管・胆管ステント留置、EUS-CPN（腹腔神経叢ブロック）など、症状緩和を目的としたインターベンションも行っている。さらに、特定の専門疾患については神戸大学と緊密に連携している。食道アカラシアに対する食道運動機能評価およびPOEMの施行、炎症性腸疾患（IBD）に対する厚生労働省治療指針に準拠した新規認可薬剤による治療など、先進的な医療を提供している。

MASLD/MASH、自己免疫性肝疾患などの慢性肝疾患、肝硬変や肝細胞がんに対しても、ガイドラインに沿った専門的な診断・治療を行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均 入院 患者数	2021	33.1	36.1	34.5	31.2	35.3	38.5	37.4	43	35.2	35.9	33.1	29.5	35.2	12,856
	2022	40.3	38.9	25.5	34.2	26.9	44.2	39.1	44.7	42.5	40.3	35.7	40.7	37.8	13,784
	2023	40	40.8	40.9	41.9	46.3	37	41.1	34.3	31.8	39.8	40.1	30.4	38.7	14,166
	2024	27.6	23.2	33.6	39.6	42.6	33.5	32.1	29.7	25.7	36.6	34.2	30.4	32.4	11,825
	2025	31.8	31.3	40.6	36.4	35	32.3	30.9	38.2	33.8	35.5	43.9	37.6	35.6	12,979
1日平均 外来 患者数	2021	54.7	52.9	51.3	54.1	54.4	58.1	59	63.1	67.9	58.7	60.6	56.5	57.3	13,865
	2022	61.6	64.3	60.9	57.9	55	61.7	65.6	60.8	64.2	59.6	61.3	65.1	61.5	14,933
	2023	61	59.4	56.2	62.2	57	58.9	61.3	61.6	62	58.3	62.1	62.2	60.2	14,605
	2024	55.1	57.7	56.3	53.6	52.5	60.4	58.2	55.9	55.4	53.9	61.6	59	56.6	13,743
	2025	58.4	60.5	59.1	59.1	58.9	63.5	61.6	63.9	60.9	61.8	62.9	62	61.1	14,757
新入院 患者数	2021	134	136	123	117	148	134	158	131	138	110	101	145	131.3	1575
	2022	138	123	106	105	100	147	123	144	135	118	113	139	124.3	1491
	2023	127	119	120	123	143	116	138	113	91	103	117	87	116.4	1397
	2024	104	90	109	122	137	99	101	89	92	95	98	106	103.5	1242
	2025	129	108	137	126	119	116	124	116	128	142	120	132	124.8	1497

呼吸器内科

▶ **これからの展開** 呼吸器内科は2020年4月に開設し、呼吸器専門医2名で診療を開始した。神戸大学呼吸器内科の関連病院では、兵庫県内で最も東に位置する病院である。長らく呼吸器内科の専門医を擁する総合病院がなかったエリアであり、神戸市東灘区周辺地域の患者や、地域医療を行っている先生方のご要望に応じていけるように取り組んでいきたい。2022年度の増床に伴い、より多くの方の診療を行ってきたいと考えている。現在は指導医2名、専門医2名を含む6名体制となり、外来、入院ともフレキシブルに対応できており、近隣施設からの紹介も増えてきている。

▶ **得意領域の深化** 肺炎や結核・非結核性抗酸菌症などの呼吸器感染症、肺がん、間質性肺炎、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）など幅広く診療を行っている。2024年4月からは常勤の呼吸器内科スタッフが計6名となった。また、看護師や薬剤師とも協力し、重症喘息の治療にも力を入れている。2025年2月からは、兵庫県内で初めて肺非結核性抗酸菌症の専門外来を開設した。呼吸器外科や放射線科との連携もできており、様々な診断・治療の選択肢をご提供できるものと考えている。救急搬送される肺がんや間質性肺炎急性増悪の患者も増えており、救急部との協力関係を強化していく。2025年度からは睡眠時無呼吸の入院・外来診療を循環器内科から引き継ぎ、近隣の医療機関と連携して診療を行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均 入院 患者数	2021	11.4	9.7	12.2	11.8	8.5	10.1	8	7.9	11.7	16.5	9.9	13.5	10.9	3,999
	2022	7.7	7.5	8	5.3	5.7	9.3	7.1	8.9	9	10.6	9.1	10.2	8.2	2,987
	2023	13.3	14.2	15.6	18.5	20.1	19.2	21.8	22.5	19.2	22.8	20.8	21.5	19.1	7,001
	2024	17.7	17.3	13.4	15.5	14	16.9	13.9	16.2	19.1	22.1	19.5	17	16.9	6,158
	2025	24.6	17.5	18.6	20.1	18.8	18.7	20.1	17	12.6	17.3	17.3	23.8	18.9	6,889
1日平均 外来 患者数	2021	13.1	12.3	11.5	11.7	12.2	10.8	12.5	14.5	14.2	15.4	13.4	12.2	12.8	3,092
	2022	12.6	13.6	12.9	13	11.8	14.3	14.1	14.1	15.3	14.5	13.1	13.1	13.5	3,280
	2023	16.1	19.3	16.6	19	16.2	19.5	18.7	19.6	21.2	19.8	20.1	20.7	18.9	4,574
	2024	22	20.9	23.3	24.4	20.4	22.6	21.7	23.2	22.9	25.6	23.8	26	23.1	5,593
	2025	24	26.9	25.6	26.6	25.6	25.3	22.1	28	25.6	27.9	27.4	27	26.0	6,271
新入院 患者数	2021	29	29	32	35	21	24	17	20	37	35	23	29	27.6	331
	2022	14	27	24	15	16	22	15	18	25	22	17	25	20.0	240
	2023	38	45	41	50	45	43	56	47	37	48	44	41	44.6	535
	2024	40	47	42	47	45	45	44	47	47	50	43	45	45.2	542
	2025	62	44	54	67	53	57	54	51	46	52	45	54	53.3	639

脳神経内科

▶ **これからの展開** 甲南医療センター自体が東灘の地域に根ざした救急医療に力を入れており、それに伴い脳神経内科も脳卒中や神経救急に診療の重点を移し、フットワークの軽い脳神経内科を目指している。また、医師の働き方改革が叫ばれており、スタッフの増員にともない脳神経内科では主治医制からチーム制へ移行し、その結果として医師一人ひとりの負担の軽減を目指している。そのため毎日朝夕にカンファレンスを行い、全入院患者を全スタッフで把握し、質の高い医療の維持に努めている。

▶ **得意領域の深化** 脳卒中診療に力を入れており、脳神経外科とタッグを組んで質の高い診療を行うことを目指している。そのため、に2021年4月より脳神経外科と週1回合同カンファレンスを開催し、症例や最新の治療法・ガイドラインの共有を行い、診療科に関わらず標準的な治療を患者に提供できる行体制を構築している。また、前述とは別にリハビリカンファレンスも行い、リハビリテーション科も含め、多職種による円滑なチーム医療を行うようにしている。さらに、2022年1月からは毎週火・木・金曜日の夜間に脳神経内科もしくは脳神経外科医が必ず当直を行い、断らない脳卒中診療を目指し、血栓溶解療法や血栓回収療法の件数も増加している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	6.8	7.5	8.9	9.1	6.8	11.4	12.9	13.5	11.7	11.3	10.8	17.7	10.7	3,909
	2022	12.5	15.9	15.5	13.3	13.4	18.4	14.7	15.3	15.2	16	11	12.6	14.5	5,294
	2023	14.9	23.1	23.7	17.5	19	16.9	14.5	19.7	17.2	21.6	21.3	16	18.8	6,872
	2024	20.1	22.4	19.4	20.7	23.8	23.2	20.3	17.2	24.5	26.5	24.3	23.7	22.2	8,095
	2025	21.9	17	19.7	20.9	21.5	22.8	20.4	16.8	14.6	20.1	20	17.3	19.4	7,083
1日平均外来患者数	2021	21.5	23.3	22.9	25.8	24.5	25.9	25.2	26.9	27.9	23.7	25.6	26.5	25.0	6,043
	2022	27.4	27.7	27.3	28.9	27.5	29.1	27.3	28.4	30	28.5	28.4	28.8	28.3	6,866
	2023	31.6	30	31.6	33.7	30.7	33.5	30.1	31.3	29.6	29.8	27.7	32.5	31.0	7,535
	2024	29	27.6	30.3	29.7	29.8	30.3	29	30.6	29.9	31.9	29.6	31.2	29.9	7,261
	2025	27.5	29.4	28.9	28.5	30.4	29	29	30.4	33.3	35.3	29.9	33.6	30.4	7,353
新入院患者数	2021	13	21	16	10	11	23	19	18	21	18	18	30	18.2	218
	2022	33	30	32	32	27	39	30	30	31	25	21	29	29.9	359
	2023	40	41	36	41	42	24	32	27	23	30	24	37	33.1	397
	2024	33	49	37	46	42	48	42	43	46	53	45	47	44.3	531
	2025	51	44	48	57	48	43	50	39	43	47	30	36	44.7	536

緩和ケア内科

▶ **これからの展開** 緩和ケア内科/緩和ケア病棟が一丸となり、急性期型の緩和ケア病棟として、院内外のリソースと連携し、高度な症状緩和対応のみならず、合併症への対応も行うなど、従来の緩和ケア病棟では支えきれなかった地域のニーズに対応していく。
また、2026.6月からは透析中止および透析困難である腎不全患者の受け入れに関しても対応していく、がん・非がんに関わらず、苦痛を抱える進行疾患患者のより良い生活へ貢献できるようケアレベルの向上を図っていきたい。

▶ **得意領域の深化** 甲南医療センター緩和ケア病棟の強みは「緊急対応」と「地域連携」と言える。緩和ケア病棟の「神戸市東部の住民が安心して療養できる環境を質の高いレベルで提供していく」というミッションを共有し、休日・夜間問わず、在宅療養されている患者に、入院が必要となった場合には受け入れを行っている。（事前に入棟面談受診後の患者に限る）

また、なるべく患者がご自宅で苦痛なく過ごせるよう、訪問診療を行う医療機関、訪問看護ステーション、ケアマネージャーらと綿密な連携をとっている。この綿密な連携により速やかな入院受け入れが可能となっている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	16.8	14.5	15.9	15.7	17	15.3	12.3	14.5	17.6	16.6	14.1	13.7	15.3	5,598
	2022	21	17.1	17.2	18.2	15.8	18.2	16.2	13.4	13.5	14.6	16.9	18.2	16.7	6,082
	2023	11.7	15.9	14.7	17.5	16	15.2	17.9	16.5	16.1	15.1	17.2	18.1	16.0	5,857
	2024	14.8	11.8	13.8	15.3	17.5	17.6	17.5	15.3	17.7	19	20.1	18.8	16.6	6,053
	2025	16.6	19.7	15.4	14.8	16.7	16.7	19	15.7	15.3	16.3	18.4	19.5	17.0	6,208
1日平均外来患者数	2021	0.9	0.5	0.7	0.6	0.6	0.8	0.6	1.3	1	1.3	1.4	1.8	1.0	231
	2022	1.4	1.2	1.4	0.8	1.3	1.4	1.4	1.6	2	1.8	2.7	2.1	1.6	382
	2023	0.8	1.6	1.2	1.2	1.2	0.9	1.3	0.8	0.9	1.5	0.8	0.7	1.1	261
	2024	1	1.4	1.3	1.4	0.9	1.3	2.1	2.5	3.1	2	2.3	2	1.8	425
	2025	1.3	1	1	1.1	1.4	1.4	2.1	2.6	3.6	2	1.8	1.8	1.8	422
新入院患者数	2021	29	18	28	29	22	20	22	29	31	25	26	29	25.7	308
	2022	28	25	26	21	26	30	23	25	25	23	29	27	25.7	308
	2023	18	23	36	27	26	22	18	24	30	16	23	25	24.0	288
	2024	22	19	19	29	25	27	23	19	22	13	24	24	22.2	266
	2025	20	21	21	23	22	24	19	21	25	26	23	35	23.3	280

循環器内科

▶ **これからの展開** 循環器疾患は虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、末梢動脈疾患、心不全などがあり緊急を要する疾患が多く迅速な対応が不可欠でありクリニック、近隣の病院とは循環器疾患のホットラインを設け、スムーズな受け入れを行っている。SNSや病院主催のWEB会議といったICTを活用した病院連携にも取り組んでいる。救急隊とは密接な協力体制を取りHOT LINEも活用し積極的な循環器救急受け入れを行っている。今後も病診連携、病病連携を積極的に進めてゆく。年間のPCI件数は4,000件以上となっており神戸市でも有数の症例の多い病院となった。不整脈ablation件数も増加しており不整脈医の増員も得てパルスフィールドアブレーションも5月より開始しより安全な心房細動アブレーションを行い件数の増加を見込んでいる。また心不全診療に関しては当院は年間2,000症例以上の心不全入院患者を受け入れている。本年度の診療報酬改定で心不全再入院予防継続管理料が新設され、当院では入院での管理料1および外来での管理料2を算定する。また管理料3を算定する地域のクリニックとの連携を行い当院循環器内科が地域での心不全診療の中心となりマネジメントを行ってゆく。

▶ **得意領域の深化** カテーテル治療、不整脈、心エコー、心不全などの専門医が多数在籍しており、すべての循環器疾患に対応している。虚血性心疾患に対しては、従来のステント治療だけでなくロータブレーター、DCB（Drug-coated Balloon）による治療を行っており、重症大動脈弁狭窄症に対しては、バルーンによる治療（BAV）も積極的に行っている。そして不整脈診療においてはカテーテルアブレーションを行う不整脈医の増員とパルスフィールドアブレーションが導入され、心房細動のアブレーションがさらに安全に短時間で施行できることが期待され、今後症例数を増やしてゆく。ペースメーカー治療においてもリードレスペースメーカーの植え込みもおこなっている。心不全治療に関しても最新のエビデンスに基づいた加療、心臓リハビリ、多職種連携での再入院予防を行っており、さらに地域医療機関とも連携をおこなって東神戸の心不全診療の中心としての心不全診療を行ってゆく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	32.7	29.7	27.7	24.6	21.3	25.3	26.3	32.9	30.6	40.8	29.6	41	30.3	11,037
	2022	45.9	47.4	42.6	36.9	33.6	40.9	44.8	53.6	46.8	51.3	47.9	51.6	45.2	16,515
	2023	43.9	40.8	34.3	40.3	37.9	36	38.2	46.9	41	50.7	50	40.4	41.7	15,251
	2024	43.4	44.4	45.8	41.5	45.1	37.6	45.1	42.8	45.9	42.2	48.1	50.5	44.4	16,192
	2025	37.9	36.3	36.3	40.5	42.4	37.5	32.6	39.3	41.3	38.6	38.3	36.4	38.1	13,907
1日平均外来患者数	2021	59	60.6	53.3	60.3	58.9	65	60.3	59.2	63	63.2	61.5	62.2	60.5	14,629
	2022	64.3	63.8	57.9	62.8	59.8	65.5	66.8	66.8	68.8	69.3	66.4	62.2	64.5	15,647
	2023	68.2	65.3	60.9	62.6	59.7	64.4	65	68.5	70	73.3	72.7	68.4	66.6	16,140
	2024	66.9	67.8	66	65.5	64.9	70.3	66.5	69.4	69	73.6	70.8	65.7	68.0	16,505
	2025	62.6	62.3	61.8	60.3	61.3	67.3	62.1	68.3	65.7	69.8	73	66.5	65.1	15,701
新入院患者数	2021	96	90	88	81	78	89	83	104	91	110	75	94	89.9	1079
	2022	106	121	93	101	75	105	118	125	107	119	117	132	109.9	1319
	2023	115	125	110	123	108	105	111	134	112	119	125	102	115.8	1389
	2024	111	123	117	120	132	107	140	146	151	121	136	134	128.2	1538
	2025	103	105	119	128	100	107	107	109	118	123	105	102	110.5	1326

消化器外科

▶ **これからの展開** 甲南医療センター消化器外科は特にがん診療に力を入れており、消化器内科、腫瘍血液内科、放射線科、病理診断科、緩和ケア内科と密に連携している。カンサーボードを定期的に開催し、当院で推奨される方針を決定する。さらに、リハビリテーション部、栄養管理部とも協力し、患者の術前、術後の適切な管理を行っている。病棟でも看護部、薬剤部と多職種チームで患者の安心・安全につながる医療の実践に努めている。救急医療にも力を入れており、24時間365日のオンコール体制で、地域の皆様に貢献できるようなシステム構築をしている。術直後で自宅退院が困難な場合には、六甲アイランド甲南病院を中心とした施設とも連携し患者やご家族の状況に応じたフォローアップができるよう調整し、大病院にはない小回りや温かみで、患者に満足していただけるよう務めている。また2024年より消化器病センター外来枠を増設し、消化器疾患に対する診療科横断的な対応を可能とし、地域の消化器診療の要として体制整備を進めている。

神戸東部、芦屋を中心とした地域に根ざし、住民の皆様の信頼を得られるよう、チーム一丸で診療レベル向上を図っている。

▶ **得意領域の深化** 当科の手術はおよそ80%が腹腔鏡手術となっている。スタッフのうち8名が日本内視鏡外科学会技術認定医の資格を有しており、技術面でも高い質が担保されている。2023年からロボット支援下手術を導入し、結腸切除、直腸切除、胃切除、肝切除、脾切除、鼠径部ヘルニア手術を実施しており症例数も増加傾向にある。また食道外科専門医（1名）や肝胆脾外科高度技能専門医（2名）も在籍しており、高難度手術も実施可能な施設であることも特徴といえる。2026年から肛門外科専門の女性医師も着任している。ロボット支援下手術を中心として低侵襲手術から、高難度手術まで幅広く実施できる数少ない施設であり、地域への貢献度を高めるべくこれからも研鑽に努めていく。また神戸大学を中心とした外科専門研修プログラムの連携施設として専攻医を受け入れ、若手外科医の教育・指導にも力を入れており、将来の外科診療を支える人材育成を目指している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	19.3	20.5	20	21	19.3	19.8	20	22	18.7	18.9	22.3	19.4	20.1	7,331
	2022	17.7	15.4	20.5	18.5	19.8	23.1	24.1	20.3	25.3	22.2	22.5	17.5	20.6	7,504
	2023	16.2	23.7	25.3	24.8	24.7	26.5	31.3	27.4	26.6	24.5	24.3	25.9	25.1	9,193
	2024	29	23.5	24.6	25.1	27.5	30.4	33.9	32.9	25.8	22.9	29.8	28.1	27.8	10,126
	2025	37.2	33.7	30	38.9	32.1	30.1	33.9	36.1	37.3	31.5	31.8	35.5	34.0	12,421
1日平均外来患者数	2021	22.4	19.6	21.1	23.2	23.1	22	26.8	24.9	23.7	25.5	22.9	25.6	23.4	5,668
	2022	22.3	26.1	23	20.3	21.4	22.6	23.9	25.7	25.8	23.9	25.6	24.1	23.7	5,752
	2023	24.3	27.6	24	26.8	24.5	26.5	27.5	25.4	28.4	29.6	27.8	28	26.7	6,472
	2024	27.4	28	30.1	26.9	27.1	30.2	29.5	26.5	27.6	30.6	32.1	32.4	29.0	7,039
	2025	30.8	28.4	30.7	27.4	28.3	33.1	29.6	33.6	34.1	36.1	31.6	29.7	31.1	7,501
新入院患者数	2021	44	55	45	50	54	59	46	54	43	41	44	59	49.5	594
	2022	50	53	49	47	58	54	60	47	56	51	56	50	52.6	631
	2023	46	61	56	62	58	58	74	55	56	61	58	64	59.1	709
	2024	67	60	55	74	68	61	72	80	76	73	71	79	69.7	836
	2025	77	67	63	80	64	84	89	71	81	82	53	68	73.3	879

乳腺外科

▶ **これからの展開** 乳腺専門医/指導医の資格を持ち経験豊富な医師が中心になって、乳癌をはじめとする乳腺疾患全てに対応可能となっている。手術は、整容性温存を駆使した乳房部分切除と根治性を追求した乳房切除術提案し、乳房切除術を受ける患者さんに対しては、形成外科との協力で、同時・異時再建、人工物あるいは自己組織を用いた再建術を選択肢として提供している。また、遺伝診療部、産婦人科との協力で、遺伝性乳癌の診断、遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する予防的乳房切除、予防的卵巣卵管切除いずれにも対応している。早期乳癌患者に対しては、腫瘍内科、放射線科の協力のもと、術前、術後化学療法はじめ、集学的治療を駆使して根治にあたっている。また、進行再発患者に対しては、QOLの維持と延命を目的に、患者・家族に寄り添って、積極的治療から終末期在宅療養に至るまで、緩和治療科との連携であらゆる段階での治療を行っている。今後はコメディカルスタッフとともにプレストチームとして、全ての乳腺疾患患者に対処していきたい。

▶ **得意領域の深化** 外来診療は手術日（火曜日）以外の毎日行い、基本的に診療は完全予約制として、患者サポートセンターを通じて、新規紹介、乳癌二次検診、セカンドオピニオンを全て受けている。六甲アイランド検診センターで施行したマンモグラフィの一次、二次読影を行い、検診要精査者には精密検査を施行している。また、乳癌地域連携バスを活用して、紹介医、地域の開業医と乳癌患者の連携診療を積極的に行っている。治療に関しては、頭皮冷却装置を導入し、化学療法患者の脱毛予防処置を積極的に進めている。また、腫瘍内科、産婦人科と協力して遺伝診療部を立ち上げ、遺伝性乳癌を中心に遺伝カウンセリングを行い、遺伝性腫瘍診療の院内体制づくりを進めている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	0.9	2.5	1.4	1	1	0.4	1.3	0.7	0.8	1.5	1.8	2.7	1.3	485
	2022	0.9	1.7	2.5	1.2	2.6	1.9	2.2	2.1	1.1	0.9	2.4	0.8	1.7	619
	2023	1.5	1.1	1.6	2.9	1.7	2.1	2.8	3.5	0.9	3.1	2	1.8	2.1	760
	2024	2.2	2.5	2.6	2.5	3	3	3.5	2.5	4	4.1	3.4	2	2.9	1,078
	2025	2.5	1.9	1.9	0.7	1.9	0.8	1.1	1.7	2.2	2.1	2.3	2.5	1.8	652
1日平均外来患者数	2021	13.8	13.7	11.5	12.6	10.1	13	14.3	13	11.5	14.9	13.2	13.5	12.9	3,124
	2022	16.8	14.9	15.4	15.5	13.3	16.3	16.6	15.7	16	14	14.6	15.5	15.4	3,734
	2023	12.7	15	13.5	14.1	14.5	12.1	14.7	17.8	14.5	14.7	16.5	14.7	14.6	3,533
	2024	13.7	16.6	15.7	15	15.2	15.8	17.4	17.8	14	17.1	16.1	15.6	15.8	3,844
	2025	16.3	13.1	13.1	14.2	12.4	12.5	13.2	14.7	14.4	17.3	14	10.5	13.8	3,333
新入院患者数	2021	4	8	7	3	7	3	5	6	5	10	9	9	6.3	76
	2022	6	11	11	8	14	14	12	7	6	8	10	6	9.4	113
	2023	8	10	6	15	9	9	14	15	11	22	16	11	12.2	146
	2024	16	20	21	18	16	16	22	16	23	18	19	14	18.3	219
	2025	18	9	16	5	12	6	4	7	7	11	8	10	9.4	113

呼吸器外科

▶ **これからの展開** 2025年以前は2名体制であったが、今年から3人体制となった。2025年は前年と比較して若干手術件数は減少した。この原因としては臍胸の手術が減少したためであった。肺癌の手術は以前より増加してきているので、肺癌手術年間50例を目標として呼吸器内科、放射線科、病理診断科と呼吸器カンファレンスをととして連携を深めるとともに、近医への訪問を強化して呼吸器症例の増加に努めたい。

▶ **得意領域の深化** 救急科の充実にて、外傷を含めた胸部疾患が増加している。オンコール体制を維持して胸部外科緊急疾患の増加に努めるとともに、肺悪性腫瘍手術の増加に努めたい。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	1.6	2.6	2.5	3	3.7	2.3	2.4	2.6	2	1.5	2.5	1.4	2.3	852
	2022	2.3	5.5	5.2	5.3	6.1	5.5	6.2	4.7	5.2	5.8	5.4	6.6	5.3	1,941
	2023	7.2	9.4	5.1	6.5	5.7	4.7	7.1	7.8	6	5.1	3.9	9.7	6.5	2,392
	2024	10.6	5.3	6.4	6	5.7	3.1	6.9	6.1	5.8	5.6	6.1	5.9	6.1	2,233
	2025	7.4	5	3	1.8	3	4.1	4.1	5.2	5.4	5.2	8.4	6.4	4.9	1,787
1日平均外来患者数	2021	0.8	1.3	1.6	1.7	1.6	1.5	1.7	2.1	2.1	1.2	2.3	1.9	1.6	395
	2022	2	3.8	2.3	2.2	2.4	3	3.1	2.9	3.3	4.2	4.3	4	3.1	754
	2023	3.4	4.8	3.9	4.4	3.9	3.4	3.4	3.8	4	3.9	4.9	4.8	4.1	980
	2024	4.3	5.2	4.6	4.8	4.5	4.8	4.1	4.7	4.9	4.6	4.9	5.3	4.7	1,148
	2025	4.8	5.2	4.3	4.5	4.5	4.9	5.3	5.7	4.7	5.8	4.9	6	5.1	1,214
新入院患者数	2021	8	4	8	7	3	6	6	8	8	7	6	6	6.4	77
	2022	10	14	12	8	8	15	8	8	11	7	13	12	10.5	126
	2023	13	13	11	12	13	8	14	15	14	12	14	23	13.5	162
	2024	22	17	13	20	11	12	17	14	14	15	17	15	15.6	187
	2025	16	16	11	10	10	8	18	13	11	13	16	10	12.7	152

脳神経外科

▶ **これからの展開** 脳神経外科手術において、神経内視鏡や術中超音波検査および手術ナビゲーションなどのマルチモダリティを駆使して、より侵襲性の低い開頭術を実践する。また、脳血管障害の分野においては、その治療法の進歩により、これまで治療が困難であった部位に生じた脳動脈瘤に対して、ステント支援下でのコイル塞栓術や血流改变ステントを用いた脳動脈瘤治療などの従来の治療法より低侵襲かつ有効性の高い治療を展開していく。これまでと同様に敷居が低く受診しやすい脳神経外科でありながら、最先端の高度医療を提供していく。また、難度の高い治療を提供するに際し、十分な治療効果を納得していただき、かつ医療過誤を避けるために、患者や家族に丁寧に病状を説明し、理解を深めて頂いた後に治療を受けていただけるような『よくわかるやさしい脳神経外科』を引き続き目指していく。

▶ **得意領域の深化** 脳卒中の外科技術指導医と脳血管内治療指導医を揃え、より安全かつ有効な治療を選択できるように多角的な視点から診断治療を行っている。2025年4月から脳卒中センターの運用を開始し、脳外科医と神経内科医のスタッフが連携して、脳卒中診療に当たるようにしている。前年度から導入している脳卒中ホットラインを経由して多くの症例が搬送されており、当院の「断らない救急」診療に準拠した脳卒中診療体制を構築している。各々の専門性に応じた疾患別脳卒中診療を実践することで、より専門性の高い診断治療をさらに発展的に行っていく。また、脳腫瘍や頭部外傷に対しても、周術期にICUにおいて専任のスタッフとともに、神経集中モニタリングでリアルタイムに病状を把握し、病状の変化に即座に対応できるシステムを構築している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	16.2	18.3	17	18.4	21.3	18.7	15.6	16.2	13.9	14.1	18.8	25	17.8	6,499
	2022	25.8	23.2	21	12.5	10.9	11.6	15	14.2	17.1	17.6	20.3	17	17.1	6,259
	2023	18.6	17.7	13.5	16.3	17.3	13.1	14.1	19	14.1	16.3	12.2	14.8	15.6	5,707
	2024	16	14	13.7	18	15.9	17	14.1	14.2	20.3	30.1	21.5	19	17.8	6,506
	2025	18.1	24.4	16.8	20.2	20	19.8	22.9	23.3	23.6	27.9	22.9	18.4	21.5	7,861
1日平均外来患者数	2021	8.8	8.9	8.9	9	7.1	11.2	9.6	9.1	9.5	8.3	8.3	9.4	9.0	2,177
	2022	9.7	8.9	8.2	7.8	7.9	8.3	8.9	8.3	9.4	8.1	7.9	10	8.6	2,094
	2023	11	8.9	9.1	8.4	8.5	10	9.1	10.7	9.3	9.3	10	10.1	9.5	2,309
	2024	8.2	10.2	10.6	8.8	8.4	10.1	9.4	10.8	9.7	9.4	8.8	9.9	9.5	2,312
	2025	8.4	11	10.9	9.5	9.7	11.9	12.3	12.8	12.9	12.8	12.9	11.4	11.4	2,737
新入院患者数	2021	40	28	30	24	30	34	29	27	26	20	30	36	29.5	354
	2022	27	25	28	24	19	22	31	26	34	33	28	29	27.2	326
	2023	33	33	25	25	28	25	30	41	25	28	31	29	29.4	353
	2024	28	26	35	42	29	30	25	46	43	43	40	32	34.9	419
	2025	47	48	35	50	37	48	49	44	55	48	42	41	45.3	544

形成外科

▶ **これからの展開** 外傷や腫瘍切除後の組織欠損に対する再建、リンパ浮腫の外科的治療等マイクロサージャリー技術を用いた再建を増やしていきたい。

▶ 得意領域の深化

- 1) 外傷
顔面骨骨折、切断指の治療
- 2) 眼形成外科
眼瞼下垂症をはじめとする瞼（まぶた）の疾患
- 3) 再建
皮膚軟部組織欠損に対する再建、乳腺外科と連携して乳房再建

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	9.6	11.3	11.4	9.4	11.2	9.4	9.9	9.2	10.2	8.5	6.1	8.3	9.6	3,486
	2022	7.9	8.5	11.5	11.9	8.9	7.1	9.3	10	10.5	7.8	10.1	6.3	9.1	3,341
	2023	8.1	10.3	10.9	13.1	10	9.7	9.3	6.6	4.9	6.4	6.6	8.3	8.7	3,173
	2024	9	6.9	6.9	6.8	9.6	12.7	8.2	12.1	11.8	9.8	10.6	9.2	9.5	3,165
	2025	6.3	7.7	9.5	6.2	5.7	8.3	8.9	6.5	6.6	7.6	6.6	4.6	7.0	2,574
1日平均外来患者数	2021	16.2	14.6	17.4	18.3	19.5	15.1	19	18.1	20.1	18.7	15.9	19	17.7	4,283
	2022	18.5	19	15.4	17.9	16.4	18.6	14.8	19	18.4	15.4	15.4	16.2	17.1	4,142
	2023	15.9	16.8	17.5	16.4	17.4	16.1	13.7	12.9	16.6	16.4	17.4	17.1	16.2	3,930
	2024	22.9	23.7	26.1	23.8	22	26.3	29.5	27.3	26	27.6	26.9	28.6	25.9	4,920
	2025	18.4	18.8	18.8	21.1	20.2	19.8	19.5	21.4	19.2	20.3	19.6	19	19.7	4,753
新入院患者数	2021	10	14	18	12	22	14	20	17	9	17	12	29	16.2	194
	2022	6	17	18	18	16	15	11	14	17	20	14	12	14.8	178
	2023	10	17	23	17	21	14	17	13	11	20	10	14	15.6	187
	2024	12	19	12	28	19	13	23	15	17	8	19	19	17.0	204
	2025	8	13	15	22	10	14	23	8	12	18	15	8	13.8	166

整形外科

▶ **これからの展開** これまで取り組んできた近隣クリニックや地域医療機関との連携強化によって紹介患者は徐々に増えてきている。今後も地域とのつながりを大切にし、重要視していきたい。頻度の高い骨折等の外傷や変形性関節症の患者をこれまで通り積極的かつ迅速に受け入れるとともに、当科に専門医が在籍する脊椎疾患や腫瘍性疾患など専門性の高い疾患についても紹介いただけるよう取り組んでいきたいと考える。質の高い外来診療、先進的な手術を行うとともに、患者さんにとって安心できる・温かみのある医療を心がけ、患者満足度にも貢献していきたい。

▶ **得意領域の深化** 当科では、脊椎、人工関節、上肢、外傷、スポーツ整形、骨軟部腫瘍など幅広い専門領域に対応することが出来るため、それぞれの領域でさらなる成長を目指す。特に人工関節分野では、手術支援ロボットの導入を検討しており、変形性膝関節症・股関節症に対する人工関節置換術の増加と質の向上を確信している。また、近年増加しているがん骨転移患者に対しては、当科単独ではなく、原発診療科、放射線科、緩和ケア、リハビリテーションとの多職種連携による診療体制を強化していきたい。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均 入院 患者数	2021	44.8	38.4	38.7	43.1	47.8	45.3	49.1	41.9	42.4	46.3	45	54.2	44.8	16,345
	2022	51.6	54.2	52.2	54.4	61	53.6	52.5	50.7	46.5	58.5	64	46.9	53.8	19,627
	2023	42.8	45.1	47.1	37.7	46.1	42.6	41.5	47.5	46.1	47.9	50.1	55.8	45.9	16,782
	2024	50.1	47.6	45.6	47.6	46.8	48.5	44.9	50.9	52.5	52.2	54.6	54.9	49.7	18,127
	2025	50.4	58.7	50.5	49	47.8	47.5	44.8	52.9	52.9	53.8	57.3	48.8	51.2	18,679
1日平均 外来 患者数	2021	86.9	84.6	83.8	89.7	85.9	89.3	88.4	89.4	97	94.3	93.4	97.8	90.0	21,779
	2022	99.7	101.5	96.9	102.3	98.5	106.8	100.5	105.1	102.4	100.2	98.1	109.6	101.8	24,738
	2023	102.6	101.6	94.2	105.2	96.1	98.9	95	96.6	102.1	99.9	95.4	101.7	99.1	24,065
	2024	91.2	89.7	86.5	87.7	82.7	94.6	91	83.8	98.9	101.2	93.3	93.8	91.2	22,124
	2025	87	90.9	89.1	85	84.1	100	84.6	84.2	95.3	97.8	96.3	97.4	91.0	21,988
新入院 患者数	2021	89	66	75	89	85	78	95	85	100	84	84	94	85.3	1024
	2022	97	86	90	92	104	89	104	106	100	129	98	115	100.8	1210
	2023	82	93	99	81	89	82	98	103	105	105	98	100	94.6	1135
	2024	94	86	86	97	105	81	100	101	96	93	92	83	92.8	1114
	2025	94	83	98	87	88	88	92	74	98	103	90	103	91.5	1098

精神科

▶ **これからの展開** 院内他診療科からの依頼を受け、外来診察や入院患者へのリエゾンチーム回診を行うのが主な業務内容だが、救急外来での対応など精神疾患の発症急性期に介入となるケースも少なくない。他科と連携を図りながら、総合病院の精神科として限られた資源の中でできる限りの対応を今後も行っていくが、単科精神科病院など精神科入院施設のある他科病院との連携を改めて強化していく。

▶ **得意領域の深化** 当院の精神科リエゾンチームは精神科医2名、臨床心理士2名、看護師1名で構成されている。それぞれが様々な診療科との合同カンファレンスや頻回の病棟訪問などから情報を幅広く収集し精神疾患が疑われる患者への早期介入、詳細な病状変化の把握、迅速な治療対応の実践を目指している。病棟回診前のリエゾンチームカンファレンスでは各専門領域の視点から最適な介入方法について意見交換を行い、多職種ならではの複合的な解決策を今後行っていく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均 外来 患者数	2021	9.4	8.9	8.2	9.3	9	9.6	8.7	8.6	8.4	9.6	8.3	7.4	8.8	2,122
	2022	6.3	7.6	7.5	9.2	9.4	9.4	10.2	8.7	8.4	8.3	8.7	9.3	8.6	2,083
	2023	9.4	10.5	9	8.9	9.2	10.4	10	11.2	10.9	10.3	10.1	10.1	10.0	2,424
	2024	10.2	10.1	8.8	8.4	6.5	7.6	7	7.4	7.4	8.4	7.6	8.1	8.1	1,973
	2025	8.1	7.9	7	7.5	8.2	8.4	8.2	9.1	7.6	8.2	8.2	7	8.0	1,915

眼科

▶ **これからの展開** 甲南医療センターの眼科は、神戸市東灘区を中心に東は西宮、西は灘区の眼科クリニックとの地域連携を深め、1200～1400件の年間手術数を堅持している。
今後も神戸市東部の基幹眼科医療施設として診療レベル、緊急疾患の対応力を維持して近隣クリニックからの信頼を勝ち得たい。

▶ **得意領域の深化** 白内障手術、硝子体手術の小切開による手術の低侵襲化に続き、緑内障に対する低侵襲手術も日々アップデートされている。緑内障手術は流出路再建術とろ過手術に分類できるが、ろ過手術は合併症が多く、超高齢者などへの実施には慎重な判断が必要であった。2026年度より当科はインプラントを用いたろ過手術を計画している。低侵襲化によって手術適応が広がり、緑内障による失明からより多くの患者を救えることを期待している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均 入院 患者数	2021	8.2	6.2	8.6	7.9	8	9.6	8.8	9	8.1	6	6.8	8.6	8.0	2,912
	2022	6.8	7.2	7.4	7.9	5.4	7.4	7.8	7.8	9.1	6.8	9.3	7.5	7.5	2,746
	2023	8	5.4	6.1	5.3	5.4	6.2	6.4	8.5	5.7	7.2	5.6	8.5	6.5	2,389
	2024	8.2	6.6	9.3	7.7	7.6	6.6	9.2	7.5	6.1	5.5	8.3	8.1	7.6	2,754
	2025	5.9	6	5.7	8.3	7.4	5.2	6.1	6.5	5.9	5.4	6.4	6.4	6.3	2,286
1日平均 外来 患者数	2021	60.6	61.7	55.5	60.9	53.1	66.6	65.7	61.4	67.6	60.5	56.6	67.1	61.5	14,870
	2022	69	62.2	63	63.3	51.1	73.2	74	66.7	68	64.3	61.9	70.8	65.6	15,927
	2023	68.8	66.1	62.4	67.8	55.5	69.6	70.8	67.8	65.6	69.8	66.1	69.5	66.7	16,162
	2024	68.9	66.7	66.2	63.6	59.3	71.5	70.2	67.1	70.7	67.9	68.8	75.7	68.1	16,515
	2025	73.1	66.4	68.7	64.8	61.7	68.4	71.2	69.3	72.3	68.9	68.2	73.1	68.8	16,662
新入院 患者数	2021	95	75	97	83	82	96	101	102	91	78	75	124	91.6	1099
	2022	97	95	123	110	75	108	118	111	110	101	113	120	106.8	1281
	2023	121	102	103	88	75	82	94	101	70	94	80	79	90.8	1089
	2024	92	90	102	122	102	87	106	79	76	78	91	95	93.3	1120
	2025	96	84	84	113	63	69	90	81	77	80	76	101	84.5	1014

耳鼻咽喉科

▶ **これからの展開** 小児は滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎、扁桃肥大、乳幼児の難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎など、成人は慢性副鼻腔炎、慢性扁桃炎、扁桃肥大に伴う睡眠時無呼吸症候群、声帯腫瘍、急性炎症性疾患、顔面神経麻痺、突発性難聴などを中心に、地域の耳鼻咽喉科医院と連携をとりながら診療を行う。また、慢性涙囊炎による涙目に対して内視鏡下鼻腔涙囊吻合術を眼科と合同で行い症例数を増やしたいと考えている。嚥下障害の診断を通じて、他科診療を支援する。当科は、医師と聴覚専門の言語聴覚士が全員女性で、老若男女、育児中の働く保護者への配慮を含め、丁寧な医療を目指している。

▶ **得意領域の深化** 慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔腫瘍などの鼻内疾患に対する内視鏡下手術では、精細な操作が可能となる反面、隣接する脳や目などの重要臓器の損傷リスクが高くなる。このためナビゲーション機器を導入し安全性を高めている。近年増加傾向の好酸球性副鼻腔炎は、重症度に応じて難病指定を行い、併発する気管支喘息に対して呼吸器内科と連携し、手術から生物学的製剤を含めた投薬治療を行う。高気圧酸素治療装置は近隣病院にない設備で、重症の突発性難聴を中心に施行している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均 入院 患者数	2021	3.9	0.7	3.2	3.9	5.1	2.5	2.7	2.5	2.7	1.9	3.8	6.3	3.3	1,197
	2022	3.8	5.3	3.5	3.2	4.9	2.4	3.5	3.4	3.1	2.8	3.3	2.7	3.5	1,276
	2023	3.7	3.7	4.9	7.2	5.3	4	3.9	4.4	5.1	5	4.3	4.6	4.7	1,714
	2024	3.6	5.4	7.6	5.5	7	5.3	5.7	5.9	7.2	7.7	6.1	6.4	6.1	2,236
	2025	8.2	6.6	6.9	6.9	7.5	6.9	7.1	7.5	7	7.7	6.6	6.2	7.1	2,594
1日平均 外来 患者数	2021	31.6	28.1	28.1	30.9	33.9	32.7	30.5	34.5	34	29.4	29.2	34.5	31.5	7,623
	2022	31.1	33.2	30.1	30.5	34.8	38.3	34.5	34.5	32.5	30.2	35	36.7	33.4	8,130
	2023	35.1	36.5	36	41.5	38.9	36.2	38.2	37.6	36.7	39.9	40.4	40.9	38.2	9,264
	2024	40.1	35.9	33.2	34.6	32.9	32	34.6	35.4	34.5	38.5	31.8	38.1	35.1	8,544
	2025	38	37.8	35	36.9	35.6	34.2	31.6	34.7	37.1	36.6	33.4	33.9	35.4	8,564
新入院 患者数	2021	20	2	19	27	26	17	16	17	12	16	17	28	18.1	217
	2022	13	28	23	17	26	16	17	17	15	17	19	20	19.0	228
	2023	15	21	27	32	35	18	23	20	35	28	24	29	25.6	307
	2024	25	42	42	38	36	36	45	37	28	45	30	40	37.0	444
	2025	37	46	46	53	46	48	43	43	39	53	30	41	43.8	525

皮膚科

▶ **これからの展開** 皮膚科領域における生物学的製剤の適応疾患も増え、紹介患者様も増えていくと考えられる。地域に根差した皮膚科診療を円滑に行うために、今後は病診連携を密にすることが重要と考えている。日々の診療では引き続き、質の高い医療を提供するために診療レベルの向上に努めたい。

▶ **得意領域の深化** 外来では皮膚科疾患全般の診療を行っている。近隣のクリニック等からご紹介いただくことが多い、皮膚感染症や带状疱疹、水疱症、重症薬疹、下腿潰瘍などの疾患で入院加療を必要とする患者様にも適切に対応している。これからも丁寧な診療を心がけたい。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	3.5	2.7	6.5	4.5	3.8	2.1	3.1	4.3	3.6	2.1	4.4	5.7	3.9	1,405
	2022	7.1	3.7	6.4	6.1	5.9	4	4.7	3.5	3.8	2.5	2.8	5.5	4.7	1,707
	2023	6.2	2.5	5.6	5.7	6.4	4.5	4.2	4.1	5	6.3	5.3	4.6	5.0	1,840
	2024	5	5.1	5.3	5.8	4.1	2.7	5.9	3	1.8	2.6	3.9	3	4.0	1,473
	2025	2.3	3.2	3.8	4.8	4.1	3	5.3	2.7	1.7	2.2	4.5	3.6	3.4	1,252
1日平均外来患者数	2021	35.2	38.3	32.5	39.1	39	40.8	38.3	36.4	38.5	34.9	36.1	38	37.3	9,011
	2022	37.6	40.3	34.2	35.6	34.8	41.1	39.5	41.1	38.9	39.6	37.6	44.6	38.8	9,405
	2023	43.8	44	44.4	45.3	41.8	44.7	44.5	43.5	44.5	44.6	48.8	47.4	44.8	10,870
	2024	42.5	43.3	42.3	42.6	45	43.3	39.2	37.8	35.9	38.2	36	33.1	39.9	9,724
	2025	34.9	36.1	36.9	39.8	36.6	36	38.2	35.7	39.1	38.4	37.2	36.2	37.1	8,982
新入院患者数	2021	9	10	15	15	8	10	7	10	8	10	8	13	10.3	123
	2022	15	13	13	15	13	10	18	10	18	8	10	24	13.9	167
	2023	13	13	23	13	13	16	9	11	16	13	13	8	13.4	161
	2024	12	14	15	18	8	8	21	11	4	7	9	6	11.1	133
	2025	10	13	10	18	9	9	18	6	8	11	15	8	11.3	135

放射線科

▶ **これからの展開** 診断専門医6人、専攻医3人の計9人が在籍している。病院機能の統合や遠隔画像診断技術の発達に伴って、六甲アイランド甲南病院の人員を甲南医療センターへ集約し、甲南会2病院の画像診断業務を全て担っている。これによって読影業務の効率化のみならず、知識の共有や他科の医師・パラメディカルとのコミュニケーションを活性化が得られ、これまで以上の医療水準を提供できるよう努めている。また、2019年秋より、タブレット端末(SYNAPSE ZERO、富士フィルムメディカル®)を用いた遠隔画像診断も導入している。甲南医療センターの掲げる「24時間365日断らない救急」を後押しできるよう、夜間・休日を問わず読影可能な体制としている。

▶ **得意領域の深化** 近年、人工知能(Artificial Intelligence : AI)の技術がますます進歩している。一時は「医療へのAIの導入により放射線科医が不要になる」といった話も囁かれていた。しかし、CT/MRIを含めた最新の医療技術に触れる機会の多い放射線科医にとってAI技術との親和性は高く、現在では「放射線科こそが医療へのAI導入の先進的・中心的役割を果たす」という流れへ変化しつつある。AI技術の導入は大学病院レベルのみならず、甲南医療センターにおいても徐々に進んできている。(CTコングラフイーでのポリープ解析、肝細胞癌に対するTACE時の腫瘍血管解析など)AIと共存し、これらの技術を駆使して、将来的にもさらに精度の高い医療を提供できるようにする。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	0.7	0.3	0.1	0.2	0.2	0.5	0.7	1.4	0.6	0.8	1.1	0.7	0.6	217
	2022	0.5	0.6	0.4	0.6	0.3	0.5	0.7	0.1	0.3	0.5	0.4	0.2	0.4	154
	2023	0	0.4	0.7	0.2	0.3	0.5	0.4	0.7	0.4	0.5	0.1	0.1	0.4	131
	2024	0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0	0.8	0.3	0.5	0.2	0.1	0.2	85
	2025	0.1	0	0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0	0.1	0	0.1	0.1	29
1日平均外来患者数	2021	7.1	5.4	5.4	6.3	7	6.9	7	8.1	9	6.8	6.7	8.2	7.0	1,691
	2022	7.9	9.3	8.3	7.4	6.3	9	7.6	9.6	9.3	7.8	8.5	8.1	8.3	2,001
	2023	8.9	7.7	8.1	9.3	7.6	7.8	7.4	7.7	9.4	9.3	7.8	7.8	8.2	1,993
	2024	8.3	8.7	9.2	10	8.3	8.5	9.2	9.7	9.4	9.3	9.1	10.1	9.2	2,225
	2025	7.9	8.1	10.9	9.6	8.2	9.5	9.1	9.6	9.7	8.7	9.7	8.6	9.1	2,208
新入院患者数	2021	6	2	4	3	5	3	5	6	5	4	10	4	4.8	57
	2022	4	6	5	5	3	2	5	1	4	3	2	4	3.7	44
	2023	1	2	5	4	1	3	4	6	2	2	1	0	2.6	31
	2024	1	3	1	2	2	2	0	6	0	3	2	1	1.9	23
	2025	2	0	1	2	3	2	1	2	1	1	0	1	1.3	16

腎臓内科

▶ **これからの展開** 蛋白尿から維持透析までの一貫した腎臓病診療を発展させていきたい。医師とともに、血液浄化センタースタッフ、病棟スタッフ、薬剤師、栄養士、理学療法士、医事課を含むチームが協力してCKDにとりくみ、教育入院や外来での慢性腎臓病透析予防管理の件数を増やしていく。透析患者運動療法加算の算定もとれるようにする。東灘医師会に対して、当院のCKDの取り組みを強くアピールし紹介患者の増加をめざす。腎臓病教室は年2回の開催を続けていく。腎生検の件数は増加の傾向であるが、検尿異常の患者を今以上に紹介していただけるよう、病診連携を強めていく。

▶ **得意領域の深化** 透析導入患者の高齢化が進み、甲南医療センターに外来通院することが困難な患者が増えている。六甲アイランド病院血液浄化センターでは送迎サービスをおこなっており、甲南に通院できない血液透析患者は、六甲アイランド甲南病院に積極的に紹介するようにしていく。一方、在宅治療である腹膜透析は、高齢者であっても家族や訪問看護師のサポートで治療が行える場合がある。高齢であるからといって諦めずに、腹膜透析の説明を行い、腹膜透析導入を増やすようにしている。訪問看護ステーションのスタッフと一緒に勉強会を繰り返し行って、知識・情報を共有して連携を保つようにしている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	20.5	20.9	20.2	16.4	24.5	16.5	17.4	15.8	19.4	23.2	27.8	20.9	20.3	7,385
	2022	17.6	21.2	16	18.5	20.4	18.8	15.9	17.2	16.8	17.9	17.2	16.2	17.8	6,507
	2023	19.4	24.5	21.5	22.5	21.9	19.7	13.4	19.1	19.2	24.7	21.3	25.5	21.1	7,715
	2024	22.9	15.5	12.4	17.4	16.5	12	12.4	15.6	19.1	19.2	19.1	19.6	16.8	6,131
	2025	15.6	15.6	19	18.5	17.7	20.4	18.7	19.6	20.6	16.6	19.6	27.3	19.1	6,975
1日平均外来患者数	2021	71.9	85.1	71.2	84	77.3	76.5	72	72.14	78	80.2	73.7	71.1	76.1	18,366
	2022	71.1	74.6	64.4	70.8	64.6	71.8	69.7	67.5	71.2	74.8	66.3	66.4	69.5	16,840
	2023	69.2	70.9	64	72.4	66.8	67.7	65	66.2	66.6	72.9	66.8	68.6	68.1	16,525
	2024	63.7	63.1	61.7	57.8	61.4	63.2	59.5	62	61	68.2	59.7	59.5	61.7	14,986
	2025	58.3	60	55.1	54	60.3	59.2	56.5	60.4	61.9	63.2	58.2	56	58.6	14,152
新入院患者数	2021	37	47	38	44	65	34	41	31	52	52	36	36	42.8	513
	2022	31	47	34	35	40	39	30	38	43	38	40	44	38.3	459
	2023	48	41	40	59	47	37	42	41	42	45	34	43	43.3	519
	2024	36	42	33	46	36	30	40	40	53	41	41	37	39.6	475
	2025	37	33	42	40	39	38	41	42	31	43	36	39	38.4	461

泌尿器科

▶ **これからの展開** 現在、泌尿器科腹腔鏡下手術認定医不在にて、それらの必要性があれば主に大学病院に紹介している。手術治療としては経尿道的な手技を主とし、前立腺肥大症に対しては投薬加療のみならずレーザー使用による低侵襲手術等での対応を勧めたい。開腹手術に対しては他科の必要性に応じて行う予定。

▶ **得意領域の深化** 泌尿器科全般について外来診療を行い、必要があれば入院で対応を行っている。手術は経尿道的な手術（膀胱癌や前立腺肥大、腎・尿管・膀胱結石に対する内視鏡的破碎術）や体外衝撃波結石破碎術、前立腺生検を中心に行っている。抗癌化学療法は前立腺癌、膀胱癌、腎癌など泌尿器科腫瘍に対して行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	4.7	5.4	6.1	5.8	6.9	4.9	7.3	7.1	4.3	5	4.8	6	5.7	2,082
	2022	4.3	5.2	6.4	7.4	5.9	4.9	6.6	4.9	6.8	8.1	5.4	4.5	5.9	2,142
	2023	3.4	6.2	6	6.3	9.3	9.5	6.1	5.9	7	6	4.6	6.1	6.4	2,336
	2024	0.9	0.4	0.3	0.7	3.5	5.7	6.2	8.3	4	4.6	7	6.9	4.0	1,469
	2025	7.3	5.6	4.5	8.7	7.4	8.2	6.7	5.2	5.3	4.3	3.7	5.7	6.1	2,219
1日平均外来患者数	2021	21.5	21	18.1	20.1	21.2	20.4	21.9	22.8	23.7	21.4	19.8	22.2	21.2	5,123
	2022	22.6	23.2	22.6	21.4	23.4	20.1	23.9	23.2	24.6	22.8	24	20.3	22.7	5,502
	2023	22	23.2	19.2	22.3	21.5	21.8	22.2	25	23.2	23.7	22.3	22.9	22.4	5,442
	2024	22.6	18.6	18.8	18.5	18.7	22.4	24.2	22.9	26.7	27.8	25.2	25.4	22.7	5,477
	2025	29.4	25.6	26.3	27.9	25	29.7	29.7	27.6	32.7	31.9	29.7	30.4	28.8	6,973
新入院患者数	2021	21	29	34	29	34	30	37	34	29	28	24	36	30.4	365
	2022	25	28	24	33	38	31	27	31	35	35	21	22	29.2	350
	2023	19	33	30	19	33	29	24	31	38	32	24	21	27.8	333
	2024	9	3	2	7	17	24	27	31	18	24	24	19	17.1	205
	2025	25	23	26	32	28	34	30	23	29	23	18	25	26.3	316

小児科

▶ **これからの展開** 東灘区・灘区で唯一の小児病棟を持つ病院として、入院が必要な小児を受け入れている。年間に約1000～1300人の小児患者の入院がある。また、神戸市小児二次救急輪番病院として、年100日程度の二次輪番を受け持っており、休日や時間外にも、救急搬送や、神戸子ども初期急病センターからの入院患者にも対応している。小児病棟は25床あり、個室を多くとり、数々の感染症にも対応している。小児病棟として、内科的疾患だけでなく、耳鼻科、整形外科、形成外科などの手術にも対応している。病棟には病棟保育士を配置し、子どもの年齢に応じた療育支援を行っている。新生児室には4台の保育器があり、低出生体重児や、性直後の新生児のトラブルにも対応している。

▶ **得意領域の深化** 小児科医は感染症などの急性疾患全般に十分な経験を持つだけでなく、それぞれが専門分野を持ち、専門的な診療を行っている。現在、アレルギー学会専門医が3名（うち1名が指導医）、頭痛専門医が1名在籍しており、アレルギー外来、腎外来、頭痛外来などを開設している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	11.3	16.6	22.2	22.2	12.7	8.8	9	7.8	7.3	6.6	7.5	6.2	11.5	4,214
	2022	7.8	12	10.9	13.6	14.3	16.5	13.1	13	13.5	14.4	13.4	14.9	13.1	4,797
	2023	14.6	19.1	23.5	19.9	17	19.6	16.7	16.5	18.1	14.4	13.2	15.2	17.3	6,339
	2024	16.8	23.9	20.8	23.4	21.8	19.7	19.8	20.8	20.5	15.9	18.1	14.6	19.7	7,187
	2025	15	16.7	18.7	16.7	12	15.8	12.6	15.6	13.4	13.7	13.4	14.1	14.8	5,406
1日平均外来患者数	2021	19	23.5	22.1	24.7	22.3	23.2	22	19.8	24.9	22.5	20.9	22.6	22.3	5,390
	2022	20.7	23.8	21.4	29	27	26.9	24.1	21.3	24.7	24.8	24.6	25.6	24.5	5,949
	2023	23.6	25.6	27.5	26.9	26.9	24.9	26.8	26.8	27.4	23	24	28.1	26.0	6,313
	2024	21.4	22.6	23.5	25.9	26.8	25.8	24	25.7	27.7	24.4	24.8	27.1	25.0	6,062
	2025	21.4	23.3	25.9	24.2	25.6	24.6	21.9	28.1	26.7	25.8	26.6	28.1	25.2	6,074
新入院患者数	2021	89	106	128	135	86	65	61	66	65	60	41	47	79.1	949
	2022	65	87	75	99	102	104	84	89	90	91	96	110	91.0	1092
	2023	103	124	125	128	129	110	104	115	106	92	84	97	109.8	1317
	2024	102	127	111	133	106	98	108	115	113	99	86	88	107.2	1286
	2025	90	104	99	121	92	95	94	93	100	93	87	100	97.3	1168

産婦人科

▶ **これからの展開** 産婦人科ほど多岐にわたる診療を担う診療科は他にないと言える。出産に始まり、思春期のヘルスケア、妊娠・分娩、成熟期における子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣嚢胞などの良性疾患の治療、更年期医療、婦人科悪性腫瘍の診療、さらには老年期疾患まで、女性の一生に寄り添いながら健康を支える医療を、常に高い水準で提供していきたいと考えている。当科は、女性の健康を守る良きパートナーとして、地域に信頼される診療科を目指している。そのために、当科が得意とする腹腔鏡手術やロボット支援手術などの低侵襲手術をさらに発展させるとともに、常に最新の知見や技術を取り入れ、診療レベルの向上に努めていきたい。また、少子化時代に求められる新たな周産期医療のあり方についても常に模索し、無痛分娩をはじめとした地域のニーズに応えられる体制づくりを進めていく。さらに、学会発表や論文発表を積極的に行い、地域住民の皆様や医療関係者への情報発信を通じて、地域に根ざした中核病院としての役割をより一層強化していきたい。加えて、今年度より日本産科婦人科学会専門研修基幹施設となったことを契機に、若手医師教育にもさらに力を注ぎ、次世代の産婦人科医育成にも積極的に取り組んでいく方針である。

▶ **得意領域の深化** 当院は兵庫県より地域周産期協力病院の指定を受け、地域周産期医療ネットワークの一翼を担っている。NICUを有していないため、原則として妊娠35週以降の症例を取り扱っているが、近隣クリニックから重症症例の紹介を受けるなど、地域周産期医療において重要な役割を果たしている。また、従来より医師のスキルアップに力を入れており、当科は産婦人科領域のサブスペシャリティである周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、女性ヘルスケア専門医に加え、腹腔鏡技術認定医およびロボット手術技術認定医の修練施設となっている。各医師が専門性を高めることで、診療科全体としての医療レベル向上を図っている。さらに、これらの専門技術を融合した婦人科悪性腫瘍に対する低侵襲手術を当科の特色としており、特に子宮体癌に対するロボット支援手術は神戸市内でも限られた3つの施設のみが実施している。当科には地域の医療機関から広く患者紹介を頂いており、今後も高度かつ安全な医療提供を通じて地域医療への貢献を続けていきたい。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	12.5	9.2	8.5	10.1	10.9	10.6	14	13.3	9.1	8.5	9.2	10.8	10.6	3,856
	2022	8.7	9.4	7.2	7.7	9.4	7.2	9.4	9.7	8.7	7.2	9.3	10.4	8.7	3,171
	2023	8.3	9	10.6	9.8	11.5	9.5	12.1	10.4	10.7	9.5	8.1	7.7	9.8	3,574
	2024	9	6.9	6.9	6.8	9.6	12.7	8.2	12.1	11.8	9.8	10.6	9.2	9.4	3,453
	2025	7.6	6.1	9.8	9.9	12.4	10.1	12	9.6	8.3	7.1	7.4	7.3	9.0	3,275
1日平均外来患者数	2021	22.8	26.1	23.7	23.4	23.6	27.7	29	30.2	29	24.4	25.4	29.4	26.2	6,345
	2022	24.4	26.4	24.9	22.6	23.5	27.1	26.4	27.8	29.7	27.5	26.6	28	26.2	6,367
	2023	25.7	25.1	26.6	26	24	26.5	29.9	27.3	26	26.1	24.6	27	26.2	6,371
	2024	22.9	23.7	26.1	23.8	22	26.3	29.5	27.3	26	27.6	26.9	28.6	25.9	6,278
	2025	27.8	26	25.6	26.6	27.9	27.5	29.7	26.7	29.9	28.7	28.6	30.3	27.9	6,763
新入院患者数	2021	56	46	39	44	52	49	65	62	43	47	42	47	49.3	592
	2022	38	51	35	38	46	41	37	43	43	40	34	49	41.3	495
	2023	40	53	54	56	67	44	66	48	53	50	37	44	51.0	612
	2024	48	38	38	51	41	64	52	62	51	49	47	51	49.3	592
	2025	45	35	43	59	60	49	55	52	50	48	44	50	49.2	590
項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
分娩数	2021	16	7	10	14	10	11	20	12	9	9	11	10	11.6	139
	2022	8	14	9	12	17	12	12	8	14	14	5	16	11.8	141
	2023	10	15	15	14	10	14	18	13	21	13	5	9	13.1	157
	2024	8	6	7	11	9	18	11	13	13	6	7	10	9.9	119
	2025	11	9	8	16	11	12	12	13	9	5	2	11	9.9	119

救急科

▶ これからの展開

救急科は北米型ER構造の救急外来とICU・HCUの診察管理を行っている。救急外来は初療室4（うち感染対策兼用2）・感染対策用室2・一般診察室2、点滴室6を合わせ14床で運用している。2023年に救急専門医2名が常勤となり、さらに2026年より救急専門医が3名となった。当科スタッフはかわらず3名であり救急対応能力が上昇。小児から高齢者まで幅広い年齢の対応が可能となった。3名中1名はICU専任医としてICUに常駐しており、救急外来ではスタッフ2名・臨床研修医3-4名の基本体制で対応。救急車台数は年間6000件前後で推移できおり専門性の高い疾患については各科オンコールの先生に診察頂き、平日日中の救急応需はほとんどの症例で対応可能となっている。平日日中の医師数としては救急患者が集中して来院しても受け入れることができる体制とはなっているが、画像検査が進まないことや看護師の人員が足りないこと等により救急外来からの退室が進まずERが満床となり対応に苦慮する場合がある。看護助手の配置や看護師の増員が急務である。病院間搬送に診療報酬がつくようになり病院救命士の配置をすることにより迎え搬送や下り搬送による安全な患者搬送と病院利益の向上も図る必要がある。ICU・HCUに関してはセミクローズのICU・HCUとしており、他科からの依頼があれば集中管理を当科でおこなって重症患者の安全な退院を支援できている。ただ、重症患者の指標であるSOFA5点以上の患者の割合が少ないことによりICU加算1の維持につき課題は残っている。

▶ 得意領域の深化

日勤帯のERに関しては救急専門医を中心とし研修医の教育もしながら質の高い医療を地域患者に提供している。救急専門医がfirst-touchし必要であれば各専門科の医師にコンサルトができる環境がそろっている。救急ERは病院のハブとして機能するべきであるという理念をもとに診療を行っており他科他職種との連携もスムーズに行っている。優先度の判断を救急専門医が行うことにより同時多数の救急患者を一度に受け入れることが可能となっており、救急車の断り症例はほとんどなく、また研修医にも救急現場での判断力やコンサルトの技術を伝えることが可能となっている。2025年度施行の病院機能評価においても救急外来ERはA判定を頂いており外部にも高い評価を得ている。ICUに関しては2023年11月より日勤のICU専任医を救急科医が担っており挿管人工呼吸管理などの高度な急性期医療を行っている。それまでは各科管理であったICU患者の挿管期間を短縮し重症患者のICU退室までの期間の短縮に寄与している。ICU加算としては各診療科の協力のもと1加算を取得しており、また多職種との連携を行いつつ早期栄養・早期リハビリ・周術期口腔ケアなどによりICU入室患者の予後改善に取り組んでいる。また夜間休日などの時間外に関しても救急専門医である救急科医になっており従来であれば断っていた重篤患者の受け入れのハードルを低くしている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
救急搬送患者数	2021	434	395	411	442	368	456	413	422	433	385	391	409	413.3	4,959
	2022	462	467	419	491	455	522	485	503	701	557	510	532	508.7	6,104
	2023	549	593	566	674	687	539	586	578	595	615	565	604	595.9	7,151
	2024	533	589	559	699	609	567	502	575	706	626	513	556	586.2	7,034
	2025	507	432	508	575	501	505	518	542	523	584	474	493	513.5	6,162
救急ウォークイン患者数	2021	610	635	588	709	659	566	521	529	590	616	523	506	587.7	7,052
	2022	542	615	450	722	630	613	554	511	588	562	431	445	555.3	6,663
	2023	512	689	564	671	662	517	522	540	539	558	460	457	557.6	6,691
	2024	431	523	451	551	527	449	487	421	567	490	380	402	473.3	5,679
	2025	399	480	444	442	474	424	410	505	490	426	341	380	434.6	5,215
合計	2021	1044	1030	999	1151	1027	1022	934	951	1023	1001	914	915	1000.9	12,011
	2022	1004	1082	869	1213	1085	1135	1039	1014	1289	1119	941	977	1063.9	12,767
	2023	1061	1282	1130	1345	1349	1056	1108	1118	1134	1173	1025	1061	1153.5	13,842
	2024	964	1112	1010	1250	1136	1016	989	996	1273	1116	893	958	1059.4	12,713
	2025	906	912	952	1017	975	929	928	1047	1013	1010	815	873	948.1	11,377

歯科・口腔外科

▶ これからの展開

口腔外科疾患全般に対して質の高い医療を提供できるよう研鑽を積み、紹介元医療機関より信頼され、地域に必要な不可欠な歯科口腔外科となるよう努力していきたい。また、院内においても、全身麻酔手術、がん化学療法、緩和ケアを受ける患者や集中治療室入室患者などに対して、対象診療科のご理解とご協力のもと、積極的に歯科介入（周術期口腔機能管理）し、口腔内を清潔にして食べる機能を回復することで、術後肺炎などの合併症の予防や治療成績の向上に貢献したい。

▶ 得意領域の深化

当科では、患者がストレスなく安心して抜歯できる体制を整えている。親知らず（智歯）が深い位置に埋伏している場合や、抜歯に対する恐怖心の強い患者に対し、入院（2泊3日）のうえ全身麻酔下での抜歯を行っている。2025年の全身麻酔下抜歯症例数は296例と当科の入院症例の多くを占めており、得意領域となっている。

また、2024年4月に周術期口腔ケア室を開設していただき、専用の診療ユニットで歯科衛生士が活動できたことにより、周術期口腔機能管理実施症例数を大幅に増加（2023年：343例、2024年：956例、2025年：1884例）することができた。欠員していた歯科衛生士2名を2026年4月より新規採用により補充することができ、7名体制となったので、本年度はより充実した周術期口腔機能管理を実施できると考えている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均入院患者数	2021	1.3	1.3	1.4	1.6	1.5	1.6	1.6	1.8	1.3	1.3	2.4	2	1.6	577
	2022	1.5	1.7	2.2	2.9	1.7	1.2	1.3	1.4	1	1.2	1.7	1.7	1.6	593
	2023	1.9	1.7	1.8	2	1.7	1.1	2.3	1.8	1.8	1.6	1.5	1.5	1.7	633
	2024	1.8	1.7	1.9	1.8	1.8	2	2.1	2	3.3	3.2	2.1	2.6	2.2	808
	2025	3.2	2.5	2.8	2.2	2.2	2.5	2.5	2.3	1.9	2.2	2.1	2.9	2.4	888
1日平均外来患者数	2021	29.4	31.3	28	33.9	32.6	33.3	34.8	35.2	36.4	34.1	36.9	40.1	33.8	8,182
	2022	37.6	38.4	37.7	37.6	37.4	37.3	40.2	41.8	41.1	37.1	41.2	43.6	39.2	9,539
	2023	38	40.4	40.6	38.3	38.5	37.1	38.8	35.6	41.2	37.5	40.6	41.4	39.0	9,473
	2024	43.5	42.1	46.4	45.8	46	46.6	47.9	47	50	46.1	49.4	46.5	46.4	11,272
	2025	48.9	55.9	54.3	55.9	57.1	49.2	53.8	57.6	50.7	50.4	46.8	47.9	52.4	12,679
新入院患者数	2021	20	17	21	21	23	21	24	26	20	23	22	25	21.9	263
	2022	20	25	26	29	26	19	20	22	17	21	28	24	23.1	277
	2023	26	27	28	31	31	18	32	26	25	24	22	24	26.2	314
	2024	28	24	25	29	24	29	30	29	36	35	32	39	30.0	360
	2025	41	32	35	31	35	37	36	30	27	30	26	45	33.8	405

麻酔科

▶ これからの展開

麻酔科管理症例は昨年度も順調に症例数を増やすことができた。全身麻酔での管理が困難と考えられる重症患者に対しても、区域麻酔を行って安全な管理を行っている。合併症の多い高齢者だけでなく、小児にも対応しており、灘・東灘区での小児手術症例を支えている。2025年度から産婦人科、産科病棟と協力し、無痛分娩をスタートした。総合病院としての安全管理の行き届いた麻酔分娩を行っていく予定である。

▶ 得意領域の深化

甲南医療センター麻酔科では地域の救急患者を幅広く受け入れる急性期病院として、緊急手術に柔軟に対応している。麻酔科指導医3人、専門医5人を有しており、安全性・専門性の高い麻酔の供給が可能となっている。超高齢者や、ASA-PSの高い重症患者に対しても他診療科医師やコメディカルとの連携を図り、綿密な術前評価・術後管理を前提として麻酔管理を行っている。麻酔科医の役割の一つとして術後全身管理がある。集中治療専門医も在籍しており、術後を見据えた麻酔管理、指導を行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
全身麻酔 件数	2021	203	189	218	218	238	210	239	241	218	211	188	273	220.5	2,646
	2022	212	220	224	201	250	214	224	236	242	244	226	265	229.8	2,758
	2023	183	220	230	208	259	206	226	227	208	217	216	215	217.9	2,615
	2024	216	199	173	235	250	234	257	257	267	260	244	249	236.8	2,841
	2025	242	230	226	266	230	261	267	217	275	257	209	247	243.9	2,927

◆ 診療科別手術件数

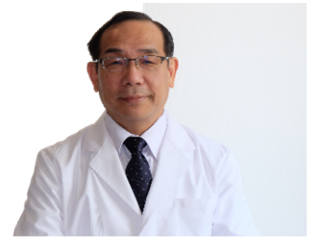
※中央手術室における手術件数

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
消化器外科	2021	33	43	39	41	42	39	48	55	40	40	37	57	42.8	514
	2022	48	42	51	32	46	43	50	47	56	46	51	50	46.8	562
	2023	35	53	47	46	51	44	52	51	40	49	45	48	46.8	561
	2024	54	56	42	66	48	58	57	61	71	56	58	61	57.3	688
	2025	71	54	57	68	59	66	70	62	77	58	49	59	62.5	750
乳腺外科	2021	4	9	5	5	1	2	4	4	2	4	6	9	4.6	55
	2022	5	6	7	5	10	7	9	7	4	6	5	4	6.3	75
	2023	4	5	6	7	8	5	10	8	4	9	5	3	6.2	74
	2024	5	3	3	11	9	7	8	7	11	12	8	6	7.5	90
	2025	10	6	4	2	5	3	4	6	7	8	7	7	5.8	69
呼吸器外科	2021	6	1	3	4	6	3	6	6	4	1	2	2	3.7	44
	2022	4	5	3	8	3	5	5	4	5	3	5	7	4.8	57
	2023	5	9	2	7	5	7	6	7	6	4	4	7	5.8	69
	2024	13	8	8	9	8	6	5	7	8	9	8	8	8.1	97
	2025	8	8	4	4	5	5	7	6	6	9	6	7	6.3	75
脳神経外科	2021	24	15	30	58	22	1	11	25	43	26	13	66	27.8	334
	2022	14	7	7	2	2	8	7	8	7	12	12	13	8.3	99
	2023	9	12	11	8	13	16	10	10	6	3	10	10	9.8	118
	2024	17	9	10	15	13	18	5	24	20	19	16	18	15.3	184
	2025	16	18	8	21	19	13	13	12	20	21	18	14	16.1	193
形成外科	2021	28	25	23	25	35	29	25	32	26	20	26	43	28.1	337
	2022	23	29	27	25	47	33	22	29	34	35	25	28	29.8	357
	2023	24	33	43	32	38	28	28	27	23	21	28	34	29.9	359
	2024	31	27	20	31	28	31	31	30	26	25	28	25	27.8	333
	2025	28	26	29	40	29	27	27	18	20	31	26	21	26.8	322
整形外科	2021	78	60	72	71	76	67	76	88	93	76	72	92	76.8	921
	2022	83	82	82	70	88	75	88	87	85	102	88	97	85.6	1,027
	2023	72	75	75	72	87	66	84	96	84	76	78	86	79.3	951
	2024	76	71	68	73	92	75	97	88	93	86	73	83	81.3	975
	2025	69	79	83	87	69	86	78	58	101	94	80	87	80.9	971
眼科	2021	160	131	162	146	130	169	164	162	163	122	125	182	151.3	1,816
	2022	163	148	188	171	140	177	193	178	182	161	177	187	172.1	2,065
	2023	198	155	165	154	143	145	168	180	131	166	161	145	159.3	1,911
	2024	163	174	175	203	182	137	183	158	150	144	152	178	166.6	1,999
	2025	186	158	170	215	134	127	174	161	158	165	154	194	166.3	1,996
耳鼻咽喉科	2021	13	1	10	16	17	14	13	11	7	10	12	19	11.9	143
	2022	9	11	16	14	19	12	14	12	11	13	9	22	13.5	162
	2023	7	12	16	19	18	13	11	15	17	17	14	16	14.6	175
	2024	18	14	19	23	21	20	17	15	13	18	20	20	18.2	218
	2025	16	24	15	23	21	19	21	19	21	24	11	18	19.3	232
泌尿器科	2021	15	23	23	28	18	20	25	22	18	19	16	21	20.7	248
	2022	18	17	17	27	19	22	18	17	24	22	15	15	19.3	231
	2023	11	14	22	9	18	21	16	16	21	19	15	12	16.2	194
	2024	1	0	1	0	7	11	17	16	11	12	10	7	7.8	93
	2025	9	11	11	14	9	17	11	12	9	11	11	13	11.5	138
産婦人科	2021	32	29	27	22	32	30	37	42	36	31	24	33	31.3	375
	2022	27	35	24	22	32	26	22	28	31	22	23	33	27.1	325
	2023	28	25	31	30	40	28	37	24	28	30	22	25	29.0	348
	2024	28	22	23	25	27	29	38	38	33	36	26	26	29.3	351
	2025	27	25	27	38	37	29	38	33	34	26	27	26	30.6	367
歯科・ 口腔外科	2021	17	15	20	20	19	19	19	19	19	17	15	19	18.2	218
	2022	17	15	22	17	23	16	18	20	14	14	20	21	18.1	217
	2023	20	21	21	21	22	16	21	21	21	18	18	18	19.8	238
	2024	20	21	22	26	22	23	26	27	29	27	27	35	25.4	305
	2025	35	26	31	26	27	31	31	23	28	23	24	35	28.3	340

2. 六甲アイランド甲南病院

基本方針

- 患者様の人格と意思を尊重し、全人的医療を目指します。
- いつも安心と満足を提供できる病院を目指します。
- 良質の医療を提供するために、健全な経営を目指します。
- 専門職としての誇りを持ち、やり甲斐ある職場をつくります。



三枝 康宏 院長

院長挨拶

六甲アイランド甲南病院では、現在回復期リハビリテーション病棟と、地域包括ケア病棟を運営しています。回復期リハビリテーション病棟は、脳血管障害、骨折、股関節や膝関節の人工関節手術後の患者様に、リハビリテーション医療を集中的に提供する病棟です。2020年には、病棟およびリハビリテーションルームを開放的な明るい空間に改修し、ADL訓練を主としたスペースと電動昇降式のキッチンや浴室訓練等の設備を揃え、退院後の患者様個々に合わせたリハビリテーションが行えるようにしています。

また、病棟内にもリハビリルームを設置しており、リハビリ技士による治療・訓練だけでなく、患者様自身も退院に向けたトレーニングがいつでも行える環境を整備しています。地域包括ケア病棟は、地域の患者様で高度な医療は必要ないが、在宅での治療が困難な方に入院医療を提供する病棟で、主として地域の先生方からの紹介患者を受け入れています。

さらに、急性期の治療は終了したが、回復期リハビリテーション病棟の入院の適応にはならない患者様も受け入れています。一般病床も一部存続しますので、地域の皆様の急性期医療の一翼を担えるものと考えています。特に、人生100年時代を想定した心臓リハビリテーションを積極的に行っています。

2020年4月に、一般財団法人甲南会は公益財団法人となり、より公益性が求められるようになりました。甲南医療センター共々、地域の皆様の健康と福祉に貢献する所存でありますので、今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特色

六甲アイランド甲南病院は、神戸市東灘区の六甲アイランド内にあり、主に回復期の患者様を中心とした病院として、地域の医療機関からの紹介を積極的に受け入れ、地域の方々の生命と健康を守るための医療を実践しております。

当院では、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、一般病棟を有しており、特にリハビリテーションの特徴として、患者様個々の病態に応じた、安全かつ効果的な治療計画が提供できるよう努めております。

基本理念として「人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん」を謳い、職員がいつも笑顔と挨拶を絶やさず、医療知識と技術の研鑽を積み、信頼される安全な療養環境が提供できるように努めています。

公益財団法人甲南会のグループ病院として、甲南医療センターや甲南介護老人保健施設、甲南訪問看護ステーション、地域の関係機関等と連携して、患者様が出来るだけ早く在宅で自立復帰ができるよう、医療に取り組んでいきます。

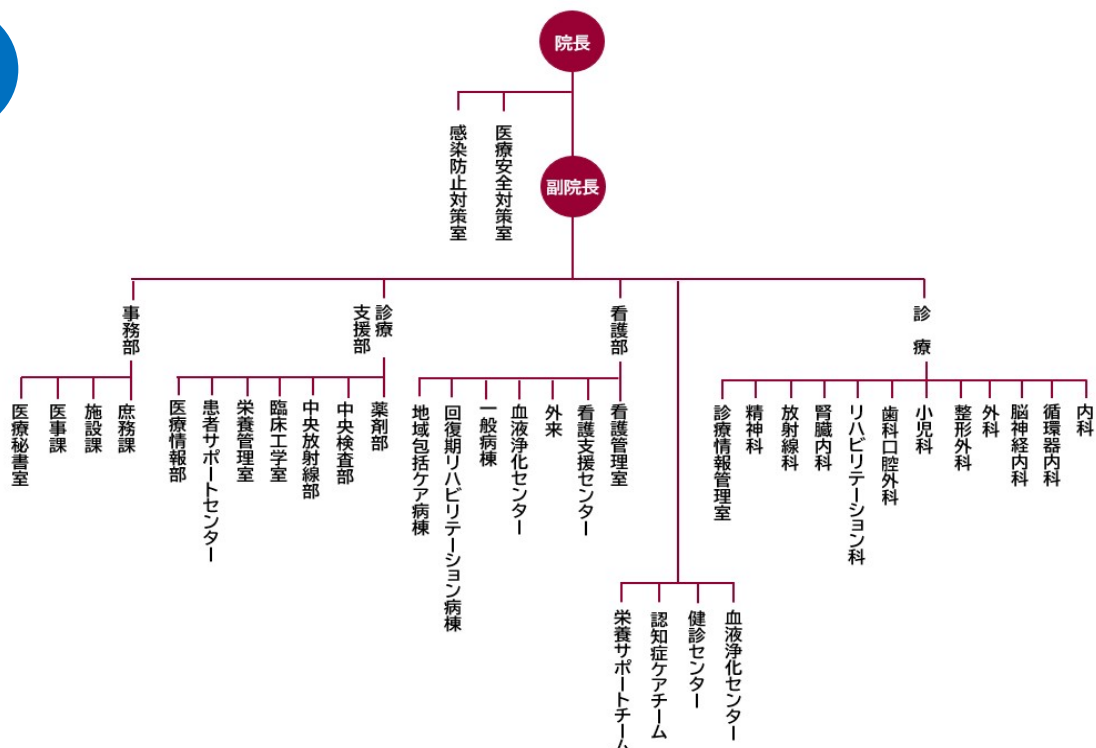
沿革

1992年(平成4)	4月1日、六甲アイランド病院開院(307床)
1995年(平成7)	阪神・淡路大震災で被災
2008年(平成20)	DPC適用病院となる
2009年(平成21)	健診センターを開設
2012年(平成24)	電子カルテを導入
2019年(平成31)	10月、甲南会の病院再編統合事業により、一般病棟34床、地域包括ケア病棟104床、回復期リハビリテーション病棟60床と再編され、198床へ

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中2-11
- TEL 078-858-1111
- 創立 1992年4月1日
- 土地面積 4,967㎡
- 建物 地下1階地上13階 延20,974㎡
- 病床数 198床(一般病棟34床、地域包括ケア病棟104床、回復期リハビリテーション病棟60床)
- 職員数 医師14名、看護部門188名、診療技術部門104名
事務部門32名 計338名(2026年3月31日現在)
- 診療科目 内科/循環器内科/消化器内科/腎臓内科/脳神経内科/
外科/整形外科/精神科/小児科/皮膚科/泌尿器科/
産婦人科/眼科/耳鼻咽喉科/リハビリテーション科/
放射線科/歯科口腔外科/血液浄化センター/健診センター
- 外来診療 受付時間 : 8時30分 ~ 11時30分
診療時間 : 9時00分 ~ 17時00分
- 入院基本料施設基準 急性期一般入院料Ⅵ / 地域包括ケア病棟入院料Ⅰ /
回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ
- 救急告示 有

組織図



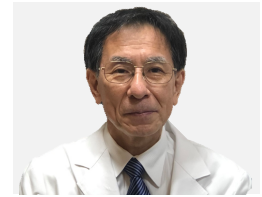
◆ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均 入院 患者数	2021	187	184	177	175	188	170	177	189	184	186	170	158	179	65,265
	2022	155	152	156	157	154	145	150	155	160	159	155	156	154	56,331
	2023	156	160	170	171	173	172	173	167	172	186	185	187	172	63,226
	2024	184	186	164	174	185	178	179	179	176	179	189	191	180	65,763
	2025	184	181	189	186	192	184	177	184	190	187	189	186	186	67,783
1日平均 外来 患者数	2021	327	348	320	354	329	340	334	353	352	331	332	322	318	77,085
	2022	308	314	281	300	289	315	295	296	304	284	288	290	296	72,092
	2023	278	287	277	279	261	288	282	283	282	282	277	282	279	67,902
	2024	253	246	258	244	254	263	248	254	270	257	254	255	254	61,608
	2025	244	246	241	239	233	250	241	255	264	254	254	245	247	59,777
新入院 患者数	2021	142	129	126	156	138	121	166	129	169	141	87	123	136	1,627
	2022	117	124	127	133	112	127	119	137	156	110	114	120	125	1,496
	2023	105	125	122	131	141	130	125	134	139	138	122	123	128	1,535
	2024	141	126	122	134	144	125	141	132	140	126	132	145	134	1,608
	2025	143	153	144	158	137	133	144	154	148	148	119	141	144	1,722
1日平均 健診センター 受診者数	2021	12	13	16	17	16	17	23	26	21	15	19	18	18	4,305
	2022	10	18	15	19	15	19	22	32	19	18	20	18	19	4,291
	2023	11	18	19	18	16	20	19	33	19	18	17	15	19	4,556
	2024	16	19	19	20	21	22	22	22	20	21	24	20	21	4,933
	2025	15	19	21	21	20	19	21	22	21	20	22	20	20	4,843

3. 甲南介護老人保健施設

基本方針

- 利用者様の人としての尊厳と権利を守ります。
- 利用者様が安心して心豊かに暮らせる施設を目指します。
- 利用者様の生活機能の維持向上に努めます。
- 地域連携を通し、利用者様が住み慣れた居宅への復帰を目指します。



宮下 勝 施設長

施設長挨拶

高齢者では複数の疾病を抱える人が多くなり、日常生活に関連した機能が低下するため、個々の疾病に対処するだけではなく、全身の臓器機能やADLに代表される身体機能、あるいは心のケアを含めさらに社会環境の整備までに及ぶ広い視点が必要と考えます。人生の豊かな経験を持つ高齢者の方々に、一人ひとりのNarrativeを大切に、尊重する姿勢で耳を傾け、心に接する介護やケアを行々と努力しております。

創設から今日までに積み上げてきた「高齢者のため、安心して心豊かに暮らせる施設」を職員全員が暖かな気持ちで高齢者の人々を包み込み、さらに前進して参ります。

特色

「人間としての尊厳・権利を守り、各個人の価値観や日常習慣などを尊重し、その人の立場にたった優しさと温もりのある看護・介護を提供し、一人ひとりの心に届くケアを行う」と理念に掲げ、安心して心豊かに暮らせる施設を目指しています。

また、生活に希望と喜びを感じ、自分らしい暮らし方を続けられるように在宅復帰超強化型施設として、機能維持・改善の支援を行います。

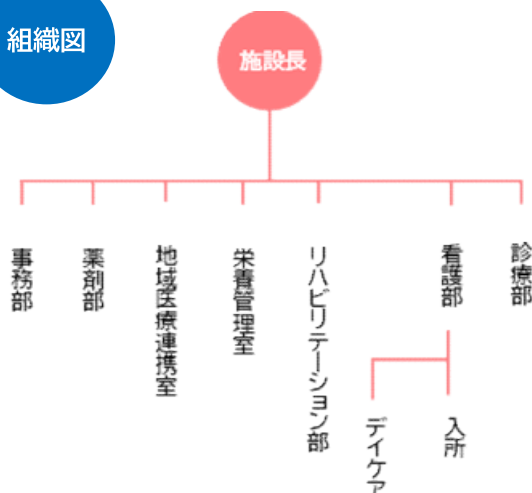
高齢者のリハビリテーションは、日常の生活動作能力を維持することが大きな目標となります。ベッドからの寝起き・更衣・トイレ動作などの生活をしていく上で必要な動作習得に向けて、リハビリ専門職と一定の時間・場所での訓練に限らず、実際の生活場面での練習をしていきます。

さらに在宅復帰の実現に向けて、家庭を訪問し課題を積極的に解決していきます。

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中3-2-5
- TEL 078-858-1180
- 創立 2001年11月1日
- 定員 入所80名/通所30名
- 室数 療養室80床(個室4室、2床室2室、4床室18室)
- 建物 地下1階地上3階 延4,024㎡
- 職員数 医師1名、薬剤師1名、看護師9名、准看護師0名、介護福祉士28名、リハビリ専門職9名、介護支援専門員1名、社会福祉士3名、看護助手5名、管理栄養士2名、事務5名
計64名(2026年3月31日現在)

組織図



◆ 診療実績

項目	2021	2022	2023	2024	2025
入所者数(1日平均)	77	66	72	73	66
通所者数(1日平均)	24	20	17.0	22	23
在宅復帰率	57.6	54.9	52.3	56.3	50.5
回転率	13.4	11.9	12.1	13.9	14.2

4. 甲南訪問看護ステーション



基本方針

- 利用者様がご自宅で自立した日常生活を送れるように支援します。
- 利用者様の権利を尊重し、利用者様との信頼関係を大切にします。
- 主治医との連携を取り利用者様が期待する、明るく・あたたかで、安心な看護サービスに努めます。
- 必要時に行政機関・福祉サービス事業者等と連絡を取り、利用者様の療養に必要な良質なサービスが提供できるよう努めます。

所長挨拶

地域包括ケアシステムの充実に向けて訪問看護への期待が高まる中、新型コロナウイルス感染症の流行で、病院や施設の面会制限により在宅療養を希望される方が増えています。訪問看護は、在宅療養の不安や苦痛を解消し「住み慣れた地域で暮らしたい」をお手伝いします。利用者様の意思決定を支える為に、ご家族、訪問医、ケアマネジャー、介護事業所、近隣の方々と共同します。

特色

当ステーションは、甲南医療センターや六甲アイランド甲南病院、甲南介護老人保健施設と同グループで協力連携が図りやすい点が特徴です。
サービス内容は、病状の観察、薬剤管理、医療機器の管理、創傷処置などの医療的処置に加え、日常生活の相談や指導、精神的な支援、終末期看護などを行っています。

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中2-11
- TEL 078-854-1156
- 創立 2001年10月1日
- 活動地域 神戸市東灘区・灘区・芦屋
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み) 8時30分 ～ 17時15分
- 職員数 看護師11名、理学療法士3名、事務1名
合計15名(2026年3月31日現在)

◆ 業績実績

項目	2021	2022	2023	2024	2025
訪問件数	722	829	706	707	795

5. 甲南居宅介護支援事業所

特色

在宅での生活や療養・介護に関して不安をもたれている皆さまが、安心して生活できるようにお手伝いします。介護が必要になったとき、どんな方法があるか一緒に考え、歩んでいけるよう、利用者様とご家族の思いを大切に、意向に沿ったサービス提供を心がけています。『在宅介護に関することなど、何なりとお気軽に電話で相談いただき、私たちケアマネジャーにお任せください。当事業所の担当エリアは六甲アイランドを中心とした東灘区です。』

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中3-2-5
- TEL 078-858-1257
- 創立 2001年11月15日
- 活動地域 六甲アイランドを中心とした神戸市東灘区
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み) 8時30分 ～ 17時15分
※2025年6月より休業

◆ 業績実績

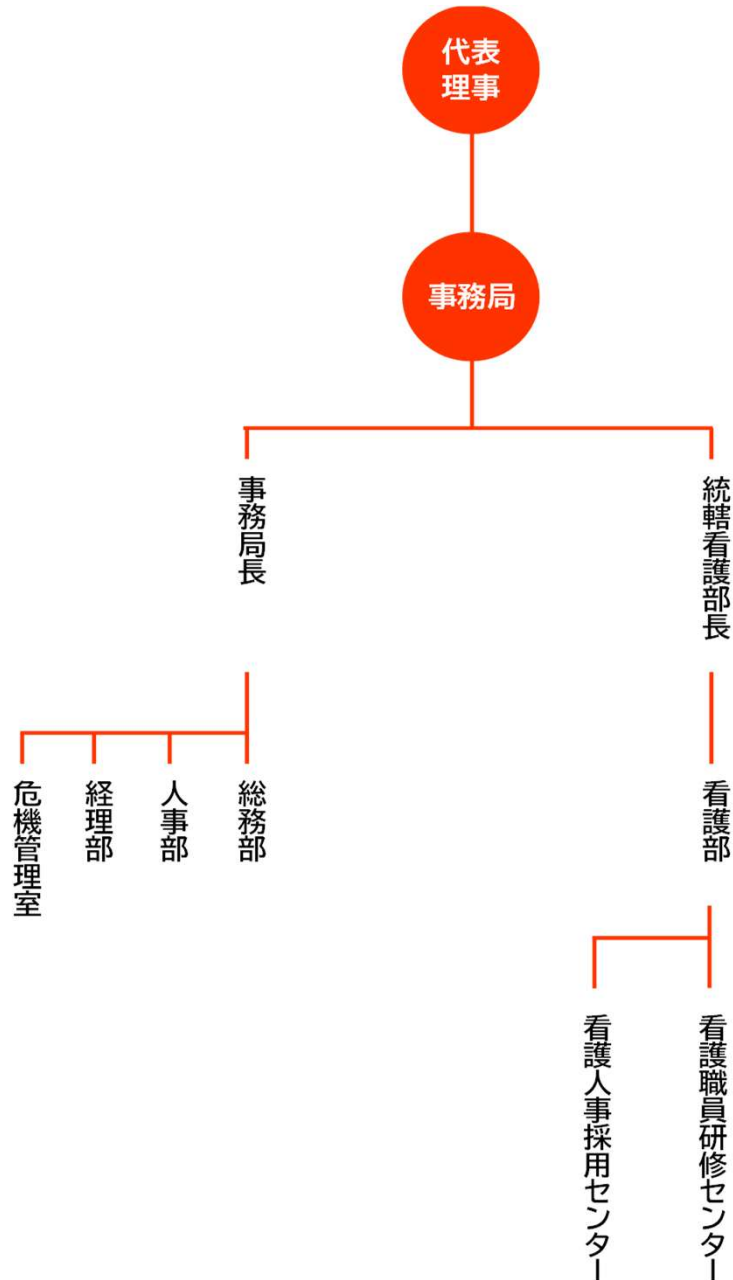
項目	2021	2022	2023	2024	2025
居宅支援件数	96	117	91	80	—

6. 事務局

概要

- 所在地 神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16 甲南医療センター管理棟4階
- TEL 078-854-4072
- 職員数 事務13名、看護師3名 計16名(2026年3月31日現在)

組織図



第3. 事業の概要

1. 公益目的事業の概要

(1) 地域医療を支援する事業

ア 地域医療機関を支援する取り組み

地域で必要な医療を確保するため、地域医療機関を支援すると共に連携を図り、医療機関の機能に応じた役割分担により、地域内で患者に予防・診療・在宅まで一貫した医療を供給できる体制を構築し、地域医療全体の医療の質の向上を図る。

(ア) 患者の紹介を通じた近隣医療機関との連携

甲南会では、かかりつけ医との連携を密にし、積極的にかかりつけ医からの紹介患者を受け入れ、また入院加療が終わった患者をかかりつけ医に戻し、病状に応じて患者が最適な医療機関で診察を受けることが出来るよう努める。

(イ) 病床、医療機器、設備等の地域の医師等への開放

かかりつけ医に病床や医療機器、設備を利用提供し、甲南会の主治医と共同診療することにより、首尾一貫した良質で効率的な医療を提供できる体制を構築し、地域医療の向上を図る。利用を希望するかかりつけ医は、甲南会の登録医として登録し、必要な時に利用することができる。

(a) 共同診療

かかりつけ医から紹介された患者を開放病床で受け入れ、かかりつけ医と甲南会の担当医師が共同で診療を行う。かかりつけ医は、手術・検査に立ち会うこともできる。かかりつけ医が入院中の患者の診療を行うことで、入院中の治療内容や検査結果を知ることができ、退院後もかかりつけ医のもとで、安心して一貫した外来診療を受けることができる。

◎開放病床

甲南医療センター	5床
六甲アイランド甲南病院	5床

◎利用可能医療機器

PET-CT、CT、MRI、RI、単純レントゲン、内視鏡カメラ、心電図、
超音波検査、脳波検査、神経伝達速度 等

【月別PET-CT、CT、MRI予約件数】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
2023	142	117	157	145	140	135	135	135	154	141	118	131	137.5	1,650
2024	149	155	144	186	138	129	174	169	164	142	132	154	153.0	1,836
2025	131	129	204	179	140	144	175	148	167	147	148	168	156.7	1,880

(b) 他開放施設・サービス

◎研修会等への参加：甲南会主催の学術講習会、カンファレンス、研修会

(c) 登録医数

2026.3.31現在 349医療機関、449名の医師(東灘区、灘区、中央区、
須磨区、芦屋市、西宮市等) ※今後も登録医参加医療機関の増加をめざす。

(ウ)医療従事者に対する研修の実施

地域医療機関の従事者に対して、研修を実施し、医療技能専門職知識の習得を通じ医療従事者個々の医療技能向上及び地域医療全体の医療の質の向上を図る。

No	研修内容	担当	開催日	開催場所	人数(参加対象)
1	第13回地域連携カンファレンス 「大腿骨近位部骨折に対する早期手術」 「大腿骨近位部骨折術後の二次性骨折予防」	甲南医療センター 座長：整形外科 診療部長 牧野健 講師：整形外科 診療部長 牧野健 整形外科 医長 佐々木優	6月12日	WEB開催	13名（医師）
2	第6回東神戸循環器症例カンファレンス	甲南医療センター 循環器内科 診療部長 大久保 英明	7月31日	甲南医療センター WEB開催のハイブリッド開催	26名（医師）
3	第11回 看護師のためのオンラインセミナー 「地域でつなぐ脳卒中治療：一時脳卒中センターコア施設と所領の連携」	甲南医療センター 脳卒中看護認定看護師 主任 川人 一展	8月7日	WEB開催	14名（看護師）
4	第14回地域連携カンファレンス 「鼠径部ヘルニアの治療方針と腹腔鏡下修復術の実際」 「低侵襲化が進む肝臓の外科治療の現状について」	甲南医療センター 座長：消化器外科 診療部長 後藤 直大 講師：消化器外科 部長 中山 俊二 消化器外科 部長 権 英寿	8月28日	WEB開催	19名（医師）
5	第3回地域連携懇話会 「脳卒中の最新治療～東灘区唯一無二！甲南医療センター脳卒中センターとは？～」 「最近の大腸がんに対する診断と治療～消化器疾患における一歩すすんだ医療連携をめざして～」	甲南医療センター 座長：副院長 腎臓内科 藤森 明 講師：脳神経外科 診療部長 藤田敦史 講師：消化器内科 診療部長 矢野嘉彦	9月20日	神戸ベイシエラトン	158名（地域の医療従事者）
6	第12回看護師のためのオンラインセミナー 「ACP：アドバンス・ケア・プランニングの考え方・進め方」	甲南医療センター 緩和ケア認定看護師 主任 江川 亜希	10月23日	WEB開催	24名（看護師）
7	第15回地域連携カンファレンス 「鼻・副鼻腔疾患の取り扱い～世代別の治療選択～」	甲南医療センター 座長：副院長 小児科 太田 國隆 講師：耳鼻科 部長 小池 雪絵	11月6日	WEB開催	20名（医師）
8	第13回看護師のためのオンラインセミナー 「フィジカルアセスメントの基礎～重症化させないために知っておきたいこと～」	甲南医療センター 集中ケア認定看護師 主任 山根 堂代	11月13日	WEB開催	36名（看護師）
9	第14回看護師のためのオンラインセミナー 「CKD患者さんのここに注意！腎機能低下から維持透析まで」	六甲アイランド甲南病院 慢性疾患看護専門看護師 主任 米村 朋代	1月29日	WEB開催	23名（看護師）
10	第7回東神戸循環器症例カンファレンス	甲南医療センター 循環器内科 診療部長 大久保 英明	1月29日	WEB開催	18名（医師）
11	第15回看護師のためのオンラインセミナー 「ストレスとセルフケア こころ健康に過ごすために」	甲南医療センター 認知症疾患医療センター 公認心理士/臨床心理士 奥澤 朋奈	2月26日	WEB開催	10名（看護師）
12	第16回地域連携カンファレンス 「もう悩まない！明日から使える『胃門科への紹介基準とスムーズな病診連携』」 「その胸焼け、PPIだけで大丈夫ですか？～食道裂孔ヘルニアの紹介基準と外科的介入のタイミング～」	甲南医療センター 座長：消化器外科 診療部長 後藤 直大 講師：消化器外科 医長 内海 昌子 消化器外科 医長 安積 佑樹	3月19日	WEB開催	25名（医師）
13	第7回地域支援ネットワーク 「急性期・在宅における心不全ケア～地域連携を通してその人らしさを前向きに支える～」	甲南医療センター 社会福祉士 副主任 北川 知子 社会福祉士 上田 朋佳	3月26日	WEB開催	47名（病院地域連携室、あんしんすこやかセンター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所など）

(エ)学生に対する研修・実習生の受入

(a)実習生の受入

神戸大学医学部から将来の医師を目指す実習生として、医療現場で受け入れて実践研修を行う

【2025年度医学生受入実績】

- ・神戸大学医学部医学科6年次「臨床実習2」 9名
- ・神戸大学医学部医学科6年次「臨床実習3」 21名
- ・神戸大学医学部医学科BSL年次関連病院実習 37 名

(b)講師派遣

甲南会の医療専門職を医療系大学での授業、講演会での講師として派遣し、各大学における医療職の養成を支援する。

【2025年度派遣実績:診療部(医師)】

No	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
1	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員の委嘱	委嘱日から R8年3月31日	消化器内科 診療部長 矢野 嘉彦
2	杏林製薬株式会社	第57回阪神耳鼻咽喉科頭頸部外科講習会 世話人会 出席	4月24日	耳鼻咽喉科 部長 小池 雪絵
3	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社	西部胸部疾患懇話会 講師	5月8日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
4	国立大学法人神戸大学	神戸大学大学院保健学研究科 非常勤講師	5月15日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
5	住友ファーマ株式会社	糖尿病領域社内研修会 講師	5月16日	糖尿病・内分泌・総合内科 医長 金谷 雅之
6	インスメッド合同会社	肺NTM症医療連携セミナー 特別講演	5月22日	呼吸器内科 部長 中田 恭介 医長 関谷 怜奈
7	神戸市メディカルコントロール協議会	第115回救急活動事後検証委員会 出席	6月6日	救急科 副部長 宮崎 勇輔
8	神戸大学大学院医学研究科外科系講座 脳神経外科学分野	脳神経外科5回生（BSL）講義 講師	6月11日	脳神経外科 診療部長 藤田 敦史
9	HOYA Technosurgica I 株式会社	第51回日本整形外傷学会学術集会：モーニングセミナーC 演者	6月28日	整形外科 医長 佐々木 優
10	国立大学法人神戸大学医学部	臨床医学講義 非常勤講師	7月4日	眼科 診療部長 石橋 一樹
11	帝人ヘルスケア株式会社	骨粗鬆症病診連携の会in灘・東灘 座長	7月10日	整形外科 副院長 笠原 孝一
12	帝人ヘルスケア株式会社	骨粗鬆症病診連携の会in灘・東灘 講師	7月10日	整形外科 医長 佐々木 優
13	第一三共株式会社 兵庫医薬営業部	明石緩和ケアWebセミナー 講師	7月26日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
14	明石市こども局明石こどもセンター	令和7年度第1回明石市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 社会的養護部会 出席	7月29日	救急科 部長 竹田 洋樹
15	中外製薬株式会社	網膜・黄斑疾患Conference in KOBE 座長	8月1日	眼科 診療部長 石橋 一樹
16	ゼリア新薬工業株式会社	勉強会 講師	8月21日	循環器内科 医長 小田島 進
17	第29回日本看護管理学会学術集会	第29回日本看護管理学会学術集会 講師	8月23日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
18	第一三共株式会社 北海道医薬営業部	「Cancer Network Conference～道北地区のがん治療を考える～」 演者	8月27日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
19	田辺三菱製薬株式会社 第6リージョン部	マンジャロWEBカンファレンスin KOBE 座長	9月1日	糖尿病・内分泌・総合内科 部長 肥後 里実
20	帝人ヘルスケア株式会社	第18回 Seminar for Empowerment in KOBE 一般講演 講師	9月5日	糖尿病・内分泌・総合内科 医長 浜口 哲矢
21	サノフィ株式会社 スペシャルティケアビジネスユニット	神戸市東部小児科・皮膚科 AD カンファレンス 座長	9月6日	小児科 医長 谷口 裕章
22	第一三共株式会社 兵庫医薬営業部	「第9回地域の緩和医療を考えるセミナー」 座長	9月8日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
23	興和株式会社 大阪支店	KOWA WEB Seminar 座長	9月8日	糖尿病・内分泌・総合内科 院長代行 山田 浩幸
24	第7回日本緩和医療学会 関西支部学術大会	第7回日本緩和医療学会関西支部学術大会 講師	9月20日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
25	日本内科学会第249回近畿地方会	日本内科学会第249回近畿地方会「若手奨励賞（初期）1」審査員	9月20日	糖尿病・内分泌・総合内科 院長代行 山田 浩幸

No	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
26	日本内科学会第249回近畿地方会	日本内科学会第249回近畿地方会「若手奨励賞（後期）2」座長	9月20日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
27	日本イーライリリー株式会社	Lilly Breast Cancer Seminar in Fukuoka 参加	9月28日	乳腺外科 院長代行 高尾 信太郎
28	プリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社	MDS Treatment Conference 20251003 パネリスト	10月3日	腫瘍・血液内科 診療部長 下山 学
29	日本イーライリリー株式会社	乳癌治療の最前線in兵庫 座長	10月8日	乳腺外科 院長代行 高尾 信太郎
30	明石こどもセンター	明石こどもセンター家庭復帰等評価委員会 出席	10月9日	救急科 部長 竹田 洋樹
31	日本イーライリリー株式会社	Breast Cancer National Symposium 2025 Autumn 参加	10月11日	乳腺外科 院長代行 高尾 信太郎
32	公益社団法人兵庫県看護協会	認知症看護認定看護師教育課程 B課程 講師	10月15日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
33	兵庫県立広域防災センター	令和7年度救急救命士養成課程 講師	10月20日	救急科 副部長 宮崎 勇輔
34	聴覚障害児支援中核機能強化事業事務局	第6回神戸市聴覚障害児支援中核機能強化事業協議会 参加	10月22日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
35	国立大学法人神戸大学医学部長	臨床医学講義 非常勤講師	10月23日	集中治療部 部長 竹田 洋樹
36	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニー	【Trauma】国内導入予定の新製品、および新規開発プロジェクトに関する アドバイザリー会議の出席について	10月28日 ～29日	整形外科 医長 佐々木 優
37	住友ファーマ株式会社	糖尿病領域社内研修会 講師	10月29日	糖尿病・内分泌・総合内科 医長 西本 祐希
38	一般社団法人兵庫県テニス協会	男子国際テニス大会「2025兵庫ノアチャレンジャー」ドクター	11月13日	整形外科 医長 宮本 智弘
39	アルジェニクスジャパン株式会社	FcRn FORUM AUTUMN 2025 in Kansai 演者	11月17日	脳神経内科 医員 宇田 有希
40	ナカシマヘルスフォース株式会社	外傷新規開発品及び導入品に関するアドバイザリー会議 出席	11月19日	整形外科 医長 佐々木 優
41	明石市こども局明石こどもセンター	令和7年度第2回明石市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 社会的養護部会 出席	11月20日	救急科 部長 竹田 洋樹
42	日本メドトロニック株式会社	Medtronic WEB Seminar:Overlap de Night with REACT @Osaka 講師	11月27日	脳神経外科 医長 重安 将志
43	兵庫医科大学病院 肝疾患センター	肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会 司会 パネルディスカッション パネラー	11月29日	消化器内科 診療部長 矢野 嘉彦
44	第一三共株式会社 兵庫医薬営業部	第21回北播緩和ケアセミナー 演者	11月29日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
45	第一三共株式会社 埼玉医薬営業部	緩和医療連携Webセミナー～埼玉日高飯能・東京青梅～ 演者	11月7日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
46	神戸大学医学部附属病院	兵庫県専門医育成事業第21回兵庫消化器外科腹腔鏡教育プログラム指導助言講師	11月8日	消化器外科 診療部長 後藤 直大
47	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構	医学生共用試験診療参加型臨床実習前OSCE外部評価者 委嘱	12月14日	消化器内科 診療部長 矢野 嘉彦
48	アルジェニクスジャパン株式会社	FcRn Forum in KOBE 演者	12月19日	脳神経内科 医員 宇田 有希
49	クラシエ薬品株式会社	社内講演会 演者	12月3日	低侵襲ロボット手術センター センター長 黒田 大介
50	武田薬品工業株式会社	地域のIBD診療を考える 座長	12月4日	消化器内科 統括部長 西岡 千晴
51	神戸大学大学院医学研究科	令和7年度兵庫県広域防災センター消防学校救急救命士養成課程病院実習 講師	12月5日	救急科 部長 竹田 洋樹
52	中外製薬株式会社	第23回日本乳癌学会近畿地方会教育講演6 座長	12月6日	乳腺外科 院長代行 高尾 信太郎

No	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
53	静岡県立静岡がんセンター	静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程 非常勤講師	①8月15日 ②8月14日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
54	公益社団法人兵庫県看護協会	認知症看護認定看護師教育課程 B課程 講師	①9月3日 ②9月4日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
55	熊本県がん診療連携協議会	2025年度熊本緩和医療研究会 講師	1月17日	緩和ケア内科 部長 山口 崇
56	兵庫県立広域防災センター消防学校	令和7年度専科教育「救急科」講師	2月13日	救急科 部長 竹田 洋樹
57	扶桑薬品工業株式会社 大阪支店	第11回神戸透析フォーラム 座長	2月17日	腎臓内科 副院長 藤森 明
58	アストラゼネカ株式会社	第2回Severe Asthma Expert Meeting パネリスト	2月26日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
59	田辺ファーマ株式会社 第6リージョン部	第23回六甲Diabetes Heart フォーラム世話人会世話人・幹事等	2月26日	循環器内科 診療部長 大久保 秀明
60	クラシエ薬品株式会社	「クラシエがん Supportive Care 講演会」 演者	2月26日	低侵襲ロボット手術センター センター長 黒田 大介
61	日本メジフィックス株式会社	「第1回神戸核医学画像読影勉強会 座長	2月27日	PETセンター センター長 鈴木 加代
62	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社	第190回糖尿病教育学習研究会 講師	2月28日	糖尿病・内分泌・総合内科 部長 肥後 里実
63	明石医療センター附属看護専門学校	2025年度社会医療法人愛仁会グループ看護学校合同交流会 講師	3月3日	救急科 部長 竹田 洋樹
64	ギリアド・サイエンシズ株式会社	社内研修会 講師	3月12日	消化器内科 診療部長 矢野 嘉彦
65	日本メドトロニック株式会社	M-1症例検討会 講師	3月19日	脳神経内科 医長 重安 将史
66	第一三共株式会社 兵庫医薬営業部	第10回地域の緩和医療を考えるセミナー 講師	3月24日	緩和ケア内科 部長 山川 崇

【2025年度派遣実績：看護部・診療部門】

No	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
1	学校法人甲南学園 甲南小学校	修学旅行の看護師派遣について	5月13日 -15日	東3階病棟 太田 莉瑚
2	兵庫医科大学	助産師の出務に関して（「助産診断技術学Ⅱ（助産診断実践課程）」〈選択科目〉	6月9日	北7階病棟 副主任 鳥塚 可奈子
3	社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院	看護師の出務について（ICLS研修 信仰記念病院コース）	6月1日	北5階病棟 主任 川人 一展
4	関西ストーマケア講習会・関西STOMA研究会	認定看護師の出務について（ストーマケア、創傷管理、失禁などの基礎知識についての講義と演習）	10月11日 -12日	看護支援センター 副師長 松島 佳子
5	園田学園大学	園田学園大学 講義依頼について	6月12日 -7月3日	患者サポートセンター 副センター長 岡島 恵子
6	神大附属中等教育学校	神大附属中等教育学校への看護職員の派遣について	7月11日	北7階病棟 福島 あや
7	第一三共株式会社	講演会の講師（パネリスト）派遣について	7月4日	薬剤部 部長 奥野 護
8	神戸女子大学看護学部	神戸女子大学への看護師の出務について	12月20日	北7階病棟 小倉 桃香 東3階病棟 鳥塚 可奈子
9	兵庫県看護協会	看護師の出務に関して（ファーストレベルⅡ期）	6月25日	看護管理室 部長 山原 敦子
10	兵庫県看護協会	認定看護師の出務について（スキンケアと褥瘡予防）	7月29日	看護支援センター 副師長 松島 佳子
11	神戸市医師会看護専門学校	認定看護師の出務について（看護専門課程）	9月25日 -11月6日	看護支援センター 主任 江川 亜希

No	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
12	神戸市立医療センター西市民病院	認定看護師の出務について（第63回ICLSコース）	7月26日	北5階病棟 主任 川人 一展
13	日本腎不全看護学会学術集会	認定看護師の出務について（第28回日本腎不全看護学会学術集会・総会）	11月29日 -11月30日	看護管理室 副部長 永井 美裕貴
14	一般学園法人 住吉学園	看護師の派遣について（尚歯会）	9月20日	北5階病棟 師長 岡村 真由美
15	一般社団法人 日本高度実践看護学会	認定看護師の出務について（第1回日本高度実践看護学会学術集会）	8月2日 -8月3日	看護管理室 副部長 永井 美裕貴
16	神戸大学	認定看護師の出務について（排便機能障害ケア研修）	8月10日 -8月11日	看護支援センター 副師長 松島 佳子
17	テルモ株式会社	看護師の出務に関して（兵庫県PDナースステップアップセミナー）	8月31日	血液浄化センター 師長 中田 裕子
18	神戸大学	認定看護師の出務について（下部尿路機能障害ケア研修）	6月24日 -9月27日	看護支援センター 副師長 松島 佳子
19	神戸市医師会	認定看護師の出務について（東灘区在宅NST推進研究会第1回研修会）	9月13日	看護支援センター 副師長 松島 佳子
20	神戸大学	認定看護師の出務について（下部尿路機能障害ケア研修）	9月2日 -9月27日	北5階病棟 主任 川人 一展
21	兵庫県がん診療連携協議会	第12回放射線セミナーの講師の派遣について（依頼）	10月25日	中央放射線部 大嶋 とも華
22	一般社会法人兵庫県助産師会	認定看護師の出務に関して（兵庫子育て・女性支援センター）	12月19日	北7階病棟 福島 あや
23	兵庫県看護協会	認定看護師の出務について（感染症研修）	11月7日	感染防止対策室 師長 窪田 順江
24	学校法人甲南学園 甲南小学校	甲南小学校の校外学習 看護師の派遣について	11月6日 -11月7日	東3階病棟 江口 絵里子
25	社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院	看護師の出務について（ICLS研修 神鋼記念病院コース）	11月8日	北5階病棟 主任 川人 一展
26	神戸女子大学看護学部	神戸女子大学への看護師の出務について	12月20日	東3階病棟 小倉 桃香
27	神戸女子大学看護学部	神戸女子大学への看護師の出務について	12月20日	北7階病棟 副主助短 鳥塚 可奈子
28	神戸国際会議場	第28回日本腎不全看護学会学術集会への出務	11月29日	認知症疾患医療センター 副センター長 保元 由香
29	神戸国際会議場	第28回日本腎不全看護学会学術集会への出務	11月30日	血液浄化センター 師長 中田 裕子
30	神戸三宮東急REIホテル	第4回HYOGO PD Ns Series Seminar	12月14日	血液浄化センター 師長 中田 裕子
31	兵庫県看護協会	看護師の出務に関して（ファーストレベルⅣ期）	1月23日 -1月30日	看護管理室 部長 山原 敦子
32	大阪府看護協会 ナーシングアート大阪	フィジカルアセスメントの基礎知識とスキルを学ぶシミュレーション人形などを用いた学習	2月7日	HCU 主認 安岡 裕美
33	神戸大学	兵庫県透析従事者研究会 春季セミナー	3月1日	看護管理室 副部長 永井 美裕貴
34	社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院	看護師の出務について（ICLS研修 神鋼記念病院コース）	1月24日	北5階病棟 主任 川人 一展
35	玉田学園	保護者のためのオープンキャンパスでの講話	3月8日	中央放射線部 高津 優香
37	兵庫県福祉人材研修センター	介護支援専門員実務研修における講義・演習の指導	3月13日 -3月14日	患者サポートセンター 副主任 松平 康子
38	河原医院	消化器内視鏡の検査介助、スコープ洗浄・管理に関する技術指導	3月17日	中央臨床工学部 中西 樹

(オ)その他の研修**(a)救急症例検討会**

近隣消防救急隊とともに救急搬送された患者のその後の経過、退院転院状況についての説明、疾患についての講義等を行い、救急隊の技量・質の向上を図る。

【2025年度開催実績】

研修会名	甲南医療センター 救急セミナー
開催日	2026年2月3日
開催場所	甲南医療センター
講師(指導者)	甲南医療センター 医師
参加者・人数	33名(看護師、消防職員等)

(b)認知症疾患医療センター症例検討会

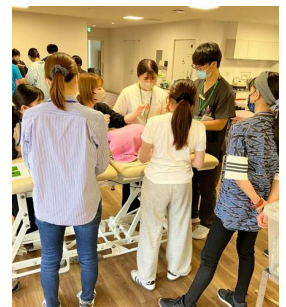
認知症疾患医療センターは認知症患者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活が出来るための支援の1つとして、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置するもので、甲南医療センターは神戸市から指定を受け、その運営を行っている。同センターにおいて、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を目指すために、地域のかかりつけ医・介護施設の医療従事者等を対象にした症例検討会を行う。(2025年度は実績なし)

(C)ICLS(Immediate Cardiac Life Support)コース

ICLSとは、医療機関の為の蘇生トレーニングのことである。甲南会の同コースは、日本救急医学認定コースとなっており、外部医療機関の医療関係者も参加可能なコースとして門戸を広げている。

【2025年度開催実績】

研修会名	ICLS研修会 (第21回、第22回、第23回)
開催日	5月24日、9月27日、2026年2月11日
開催場所	甲南医療センター
参加者・人数	第21回 第22回 第23回
	甲南医療センター職員22名、六甲アイランド甲南病院職員3名、神鋼記念病院3名、舞子台病院1名、神戸協同病院1名、協和会病院1名、佐野病院1名、神戸市消防局1名 甲南医療センター職員21名、六甲アイランド甲南病院職員2名、神鋼記念病院3名、舞子台病院1名、協和病院1名、神戸市消防局1名、野瀬病院1名 甲南医療センター職員21名、六甲アイランド甲南病院職員2名、佐野病院1名、舞子台病院1名、神鋼記念病院2名、兵庫県災害医療センター1名、笹生病院1名



(カ)研修医の育成

診療に従事しようとする医師は、2年以上医学履修過程を置く大学附属病院または医師臨床研修指定病院において研修を受けなければならない。

臨床研修指定病院は、基幹型臨床研修病院と協力型臨床研修病院の2つに分類される。

基幹型臨床研修病院： 独自に研修医を雇用し研修プログラムを実施

協力型臨床研修病院： 基幹型病院の研修プログラムの一部を担う

甲南会は、2病院で臨床研修指定病院の指定を受けており、全国から幅広く研修医を募集して受け入れ、将来の地域医療を担う医師の育成に取り組む。

甲南医療センター

基幹型病院として急性期医療を通じて様々な症例に対する基本的な知識・技術を習得させるための独自プログラムを作成し、医師の育成に取り組む。

六甲アイランド甲南病院

協力型病院として、他の基幹型病院が自院での研修が難しい分野において、そのプログラムの一部を担い医師の育成にあたる。

【年度月別研修医数】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
2023	23	22	22	21	22	22	21	21	22	21	20	23	21.7	260
2024	23	22	21	21	22	21	20	21	23	23	23	24	22.0	264
2025	24	23	21	22	23	22	22	21	23	23	23	24	22.6	271

(a)JMECC(Japanese Medical Emergency Care Course)コース

JMECCとは、心肺蘇生と重篤な急性疾患や病態悪化に適切に対応するための基礎を学ぶ画期的なシミュレーション・プログラムである。このプログラムは、日本救急医学会策定のICLSを基礎に日本内科学会独自の「内科救急」をプログラムに導入した講習会であり、内科専門医となる為には必修とされている。また、講習会は基幹型臨床研修病院であれば、自施設での開催が原則となっている。

甲南医療センターでは、基幹型臨床研修病院であることから2022年度より開催する運びとなった。開催については甲南医療センター、神戸赤十字病院、神戸労災病院、神鋼記念病院の4病院で持ち回りで行うことになった。

イ 紹介患者や地域住民に対する健康増進や疾病予防への取り組み

(ア)紹介患者に対する医療提供

健康相談を通じ、住民に気軽な受診を促し、特にフレイル(加齢により心身が老い衰えた状態)や健康障害への見識を高め、適切な受診行動につながるよう支援する。

【2025年度保健相談室設置実績】 ※参加費は無料

相談人数(件数) 25件 開催回数(毎月第2金曜日) 12回

相談内容	身体の異常	健康診断結果	運動	フレイル・認知症	栄養	介護	薬	その他	合計
(複数回答あり)	9	2	3	21	6	0	0	0	41

(イ)啓発イベント

講演会、予防体操、ヨガ、フットケア等の実践を通じた幅広い啓発イベントを行い、参加者自身の自発的な活動を支援する。

【2025年度開催実績】 ※参加費は無料

No	内容	担当	開催日	開催場所	参加者・人数
1	出前授業 「生命の尊さ」について考える	看護師・助産師	7月11日	神戸大学 中等教育学校	神戸大学附属中等教育学校 第1学年 112名 教員 5名
2	認知症疾患医療センター おしゃべり教室 「その人らしさを支える おむつの選び方・取り扱い方」	看護師	7月15日	甲南医療センター	外来患者、家族、 地域住民 11名
3	フレイル予防啓発イベント 「フレイル予防で♡イキイキ長寿2025」	認定看護管理者 小西 由佳利 認知症看護認定看護師 別府 恵子	8月30日	神戸ファッション マーケット1階 アトリウムプラザ	地域住民 64名 (主に六甲アイランド在住者)
4	認知症疾患医療センター おしゃべり教室 「『もしものとき』について話し合おう」	看護師	9月16日	甲南医療セン ター	外来患者、家族、 地域住民 12名
5	メディケア健康セミナー 『認知症を正しく理解しよう』	認知症看護認定看護師	10月22日	メディケア マンション内 コミュニティ ホール	メディケアマンション住民 約40名
6	認知症疾患医療センター おしゃべり教室 「認知症とからだのこと」	看護師	11月18日	甲南医療センター	外来患者、家族、 地域住民 12名

(ウ)健康教室

疾病予防の啓発を行い、健康増進を図る。

【2025年度開催実績】 ※参加費は無料

No	内容	担当	開催日	開催場所	参加者・人数
1	腎臓病教室	医師・看護師・栄養士・ 薬剤師・MSW	1回目 9月17日 2回目 10月15日	甲南医療セン ター	外来患者・家族 計60名 (9/17 34名) (10/15 26名)
2	糖尿病・腎臓病教室	医師・看護師・栄養士・ 薬剤師・検査技師・療法士・事務員	1回目 5月13日 2回目 10月7日	六甲アイランド 甲南病院	1回目 3名 2回目 3名
3	糖尿病教室	医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・ 理学療法士	12月15日	甲南医療セン ター	外来患者(32名) 入院患者(7名)

(エ)認知症サロン

認知症の者等(認知症の者及び軽度認知障害(MCI)の者をいう)、その家族ならびにその他の市民に対して、医療的な視点を踏まえて行う認知症に関する教育・予防・相談・交流・情報発信・普及啓発ならびに認知症の者等本人発信及び社会参加の支援であり、神戸市が指定する認知症疾患医療センターが行う診断等支援機能としての必須事業である。

認知症疾患医療センターが実施する認知症サロンで、以下のいずれかに該当するものとする。

- ・認知症の疾患教育、ケアの方法等認知症についての知識の向上に関すること
- ・認知症の運動・栄養等に関する教室等の予防に関すること
- ・認知症についての相談に関すること
- ・認知症の者及びその家族同士の交流に関すること
- ・認知症の者によるピアサポート活動に関すること
- ・認知症の者等の家族によるピアサポート活動や家族のレスパイトケアに関すること
- ・認知症に関する情報発信に関すること
- ・認知症に対する理解を得るための普及啓発に関すること
- ・その他認知症の者等及びその家族を支援するもので市長が認めるもの

【2025年度開催実績】 ※参加費は無料

No	内容	開催場所	開催日	対象者
1	コグニラボ	御影北地域福祉センター、友愛苑	毎月第4木曜日	地域住民
2	おしゃべり教室	甲南医療センター	奇数月（年6回）	地域住民
3	VR体験会	甲南医療センター、民生委員研修会、CM研修会、御影北地域福祉センター等	年5回	地域住民、医療関係者
4	びあ会（当事者会）	甲南医療センター	3ヶ月に1回	認知症当事者
5	上映会	御影北地域福祉センターコブこうベシア	9月25日	地域住民、医療介護関係者

(オ)市民公開講座

地域住民に対する健康増進、疾病予防の為の公開講座を開催する。

【2025年度デジタルサイネージ放映実績】

タイトル	講師	放映期間	形式
医師働き方改革 甲南医療センター案内 乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療 脊椎椎体骨折に対する当院の治療 アドバンス・ケア・プランニング 院内コーディネーター設置のご案内 産婦人科病棟紹介 処方箋有効期限のご案内 シャトルバス待合室ミニミニ講座のご案内 鼠径ヘルニアについて 肛門の三大疾患について	乳腺外科 岡本 明子 整形外科 副院長 笠原 孝一 整形外科 副院長 笠原 孝一 看護部 統轄部長 堀口 美由紀 救急科 部長 竹田 洋樹 看護部 部長 山原 敦子 薬剤部 部長 奥野 護 看護部 統轄部長 堀口 美由紀 消化器外科 診療部長 後藤直大 消化器外科 診療部長 後藤直大	2025年4月 ～ 2026年3月	デジタルサイネージ 事業内容は、第3次医療法改正により創設された「地域医療支援病院」の医療機能区分と重なるものである。 ※甲南医療センターは、2020年7月に兵庫県より「地域医療支援病院名称承認」を受けた。

【2025年度市民公開講座ミニ開催実績】

甲南医療センターシャトルバス待合室にて15分の小規模講座を実施しました。

No	内容	講師	開催日	対象者
1	ACP～もしもの時について考えてみませんか～	看護部 主任 江川 亜希	10月22日	地域住民
2	インフルエンザのお話	小児科 副院長 太田 國隆	11月26日	地域住民
3	年末年始の塩分接種について	栄養管理部 副士長 大谷 将史	12月24日	地域住民
4	ロコモ体操	リハビリテーション部 技士長 山本 健太	1月28日	地域住民
5	健康食品	薬剤部 部長 奥野 護	2月25日	地域住民

(カ)妊婦向けセミナー

妊娠中の食生活や歯の健康、妊娠を楽しむ工夫、妊娠体操、出産準備品の紹介、お産の経過や過ごし方についての啓発活動等を行う。

【2025年度開催実績】 ※参加費は無料

No	内容	参加者・人数	実施状況	開催場所	運営
1	マタニティ・セミナー	75組、延べ145人参加	年20回開催	甲南医療センター	助産師
2	「ベビーマッサージ」	11組、延べ33人参加	年7回開催	オンライン開催	助産師
3	「睡眠講座」	6組、延べ9人参加	年2回開催	オンライン開催	助産師
4	「保育士コラボ講座 保育士が教える赤ちゃんのおうち遊び講座」	6組、11人参加	年2回開催	オンライン開催	助産師
5	「1歳までに大切にしたいところからだの土台作り」	7組参加	年1回開催	オンライン開催	助産師

(キ)紹介患者に対する医療提供

地域のかかりつけ医から紹介のあった患者さんに対して、積極的に医療の提供を行い、治療後は、元のかかりつけ医へ逆紹介を行うことで、患者さんの治療とその後の療養へのスムーズな転換が可能となる。

【2025年度紹介率・逆紹介率実績】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
紹介患者数	1,079	1,057	1,234	1,261	996	1,012	1,099	968	1,083	975	929	1,067	1,063.3	12,760
紹介率(%)	74.8%	72.9%	77.6%	77.9%	100.9%	77.9%	73.9%	69.6%	78.2%	77.1%	75.6%	74.2%	77.6%	
逆紹介患者数	1,122	1,183	1,271	1,344	1,094	1,107	1,282	1,113	1,329	1,209	1,234	1,402	1,224.2	14,690
逆紹介率(%)	77.8%	81.5%	79.9%	83.1%	83.1%	85.2%	86.2%	80.1%	96.0%	90.2%	99.1%	97.5%	86.6%	

(2)地域完結型医療を推進する事業

ア 兵庫県保健医療計画に基づく「5疾病6事業及び在宅医療」に対する取り組み

兵庫県は、急速な少子高齢化、医師の地域偏在、診療科偏在、疾病構造の変化など、保健医療を取り巻く状況の変化を踏まえ保健医療計画をまとめており、その中で地域の実情に応じて適切な医療連携を構築することが必要な項目を「5疾病6事業及び在宅医療」として定めている。

その中には、小児、周産期等、採算性の観点や医療人材確保の問題から、神戸医療圏においても民間医療機関の撤退が続く分野も含まれている。

甲南医療センター及び六甲アイランド甲南病院においては、この「5疾病6事業及び在宅医療」(へき地医療は除く)を中心とした医療全般の提供に取り組みつつ、地域医療連携の要となっており、地域完結型医療を推進する取り組みを行った。

(ア)救急医療

救急医療は、社会環境、疾病構造の変化等と密接に連携しており、近年、需要と重要性が高まっている。一方で、救急医療に参加する医療機関は、減少傾向にあり、拡大していく救急医療の必要に応え、救急体制を強化した。

【2025年度月別救急受入件数】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
救急搬送患者数	507	432	508	575	501	505	518	542	523	584	474	493	513.5	6,162
救急 ウォークイン 患者数	399	480	444	442	474	424	410	505	490	426	341	380	434.6	5,215

神戸市二次救急病院協議会の休日・夜間救急医療輪番制に参加して、内科・外科等の基本診療科の他、循環器、脳疾患、整形外科、小児科等、他の病院では対応できない診療科目においても積極的に対応する。また、断らない救急を徹底し、地域中核病院としての中心的な役割を果たすことを目指した。

【2025年度神戸市二次救急病院協議会 休日・夜間救急医療輪番対応実績日数】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
内科	7	7	7	7	8	7	7	7	8	8	7	7	7.3	87
外科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	24
循環器	7	7	7	7	8	8	7	8	7	7	7	9	7.4	89
脳疾患	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	24
整形外科	3	3	3	3	2	3	2	2	2	3	3	2	2.6	31
小児科	8	8	8	8	8	8	8	8	9	8	7	8	8.0	96
合計	29	29	29	29	30	30	28	29	30	30	28	30	29.3	351

(イ)母子医療(小児・周産期医療)

少子化社会においては、分娩数、子供の数は減少傾向にある。しかし、核家族化による親の育児不安と大切に子供を育てたいという意識の強まりにより、小児科受診及び救急のニーズは高まっている。また、周産期医療においても、出産年齢の高齢化、低出生体重児の増加で対象者リスクが増し、訴訟リスクが高まっている。それにより、小児科医・産婦人科医は長時間の拘束・過重労働を余儀なくされ、その結果、志望医師の減少、民間の医療機関のこの分野からの撤退を招いている。神戸市でも東灘区、灘区に小児の入院できる病院は甲南医療センター以外にはなくなった。この現状の中、甲南会は、地域の母子医療を守り、支えていくことを目指した。

甲南会小児科医療は、神戸・三田小児医療連携圏域の小児二次医療機能を担い、24時間365日入院医療を要する小児救急に対応する「小児地域医療センター」に指定され、圏域の小児医療の中核病院としての機能を担った。

【2025年度産婦人科科分娩数】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
分娩数	11	9	8	16	11	12	12	13	9	5	2	11	9.9	119

【2025年度小児科救急受診患者数】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
時間外患者数	27	43	43	44	28	37	37	54	49	39	44	37	40.2	482
時間外入院	17	27	24	25	15	25	22	17	28	22	28	20	22.5	270

圏域の周産期母子医療センターと協力して、ハイリスク妊産婦またはハイリスク新生児に対して、二次救急を行う「協力病院」として指定されており、公的医療機関と連携しながら、ハイリスク周産期医療に対応した。

【2025年度産婦人科救急受診患者数 ()内は妊婦】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
受診患者数	7 (5)	11 (11)	13 (10)	20 (20)	14 (10)	11 (10)	16 (10)	7 (7)	11 (5)	5 (1)	2 (2)	16 (8)	11.1 (8.3)	133 (99)

出産後24時間以内に小児科の診察を行う等、産科と小児科が一体となって、新生児のケアにあたり、新生児から小児期まで切れ目のない診療体制を構築し、ハイリスク新生児の対応にあたる。

(ウ)災害医療

甲南医療センターは、地震・津波・台風等の災害発生時に、災害医療を行う医療機関を支援する「災害対応病院」として神戸市から指定されており、災害時医療を担っていく下記の体制を構築した。

(a)災害時の対応

- ・被災地の傷病者等の患者の受入及び治療を行う。
- ・DMATやその他救護班の受入および市が設置する救護所に対し必要な医療活動を実施する。

(b)平常時の対応

- ・医薬品、衛生資材等の備蓄および対応資機材を整備する。
- ・市が設置する神戸市地域災害救急医療対策会議へ参加する。

【2025年度自衛消防訓練実績】

No	内容	開催場所	開催日	対象者
1	防火訓練	2025年4月14日 10時～11時	甲南医療センター 東2階病棟	医師・看護師・コメディカル・ 事務職含む 30名
2	防火訓練・防災訓練	2025年10月22日 15時～16時	甲南医療センター 管理棟・東2階病棟	医師・看護師・コメディカル・ 事務職含む 45名

(エ)重点疾病対策

兵庫県は、県民の健康の保持を図るために広範かつ継続的な医療の提供が必要な、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患を5疾病として、医療供給体制の構築を計画している。甲南会では、この5疾病に対して、地域医療の中核病院として医療資源を投入し、重点的に取り組んだ。

(a)がん対策

- ・消化器病センターを設けて、食道から直腸肛門までの、消化管及び肝胆膵領域の消化器 系がんに対応するとともに、その他のがん全般にも対応した。
- ・PETセンターを設けて、早期がん細胞の発見に努めた。
- ・緩和ケア病棟を設けて痛みなどの症状コントロール中心の終末期医療を行った。
- ・がん予防対策の1つとして、喫煙の健康への影響に関して啓発活動に努め、六甲アイランド甲南病院では、専門外来を設け、保険適用で禁煙指導を行った。

【2025年度緩和ケア病棟運用実績】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	延べ
1日平均患者数	16.6	19.8	15.3	15.1	16.7	16.6	18.9	15.5	15.3	16.4	18.4	19.1	17.0	6,208
在宅等への復帰率(%)	20.0	33.3	27.3	31.4	30.3	31.3	40.0	47.1	41.4	36.0	29.4	42.9	34.2	

(b)脳卒中・脳血管疾患対策

- ・急性期血行再建術に取り組み、脳神経内科および救急科と密な連携を図り、救急患者を受け入れた。

【2025年度脳外科救急受入件数】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
時間外患者数	25	40	32	32	22	37	30	36	26	38	33	36	32.3	387
休日夜間初診	19	33	24	22	20	28	26	26	22	30	22	25	24.8	297

(c)心血管疾患対策

- ・糖尿病センターを設け、患者教育、CSII、CGM、周産期管理、妊娠糖尿病の血糖管理を積極的に行い、地域の糖尿病患者診療を支えた。
- ・複数の診療科、看護師、薬剤師、栄養士等の複数の職種のスタッフが協力し、チーム医療として血糖コントロール、合併症検査・治療、患者教育指導にあたった。

【2025年度IVR件数】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
件数	223	200	204	246	196	219	245	187	227	224	192	196	213.3	2,559

(d)糖尿病対策

- ・急性期血行再建術に取り組み、脳神経内科および救急科と密な連携を図り、救急患者を受け入れた。
- ・入院病棟内に心臓リハビリテーション室を設け、入院患者数が無理なくリハビリに取り組めるようになった。

【2025年度糖尿病療養指導件数】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
件数	48	66	52	38	44	46	50	46	53	46	44	43	48.0	576

(e)精神疾患・認知症疾患対策

認知症疾患医療センターでは、地域の保健医療・介護機関などと連携を図りながら認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、周辺症状と身体合併症の急性期治療に関する対応、専門治療相談などを実施することにより、認知症疾患患者とその家族が住み慣れた地域で安心して過ごすための支援を行った。

イ 無料低額診療事業

甲南医療センター、六甲アイランド甲南病院の患者を対象に、経済的事由から診療が困難な患者の、保険診療自己負担分の一部または全額免除を行いました。治療費の免除にあたっては、「施療・減額患者取扱規程」に基づき、公正な運営を行っている。

(単位:円)

			甲南医療センター	六甲アイランド甲南病院	合計
診療報酬	診療報酬	外来	281,451,780	71,527,690	352,979,470
		入院	3,232,722	811,920	4,044,642
		合計	284,684,502	72,339,610	357,024,112
	減額金額	外来	29,051,216	7,175,750	36,226,966
		入院	570,972	178,789	749,761
		合計	29,622,188	7,354,539	36,976,727
	減額率(%)		10.40%	10.10%	10.30%
取扱患者数	取扱患者数	外来	206,422	59,777	266,199
		入院	144,284	69,505	213,789
		合計	350,706	129,282	479,988
	減額患者数	外来	31,314	10,436	41,750
		入院	4,935	3,406	8,341
		合計	36,249	13,842	50,091
	減額率(%)		10.30%	10.70%	10.40%

上記「取扱患者数」は、地方税法第348条第2項第10号の適用により、公益目的事業の用に供している固定資産の固定資産税等非課税適用割合に適用されます(10%以上の場合は全額非課税適用)。

2. 2025年度決算概況

(別紙「決算概況表」「設備投資の状況」参照)

(1) 甲南会全体概況

① 収支概要

2025年度収支については、収入面では甲南医療センターで2024年度に取組んだ入院単価の向上策(ICU上位基準の取得、HCU開設及び急性期充実体制加算の取得)による入院収入の大幅な増加、また、六甲アイランド甲南病院も2024年度の病棟改修が終了したことに伴い入院患者数が増加、一方、費用面では職員数の適正化や変形労働制実施に伴う給与の適正化等構造改革に着手することにより、経常収支は360百万円の黒字計上となりました(対前年度比1,557百万円増益)。

その内訳として、入院診療収入(室料差額収入を含む)は、前年度比619百万円増の14,203百万円となりました。また外来診療収入は、前年度比162百万円増の4,399百万円となり、その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比771百万円増の19,394百万円となりました。

一方、医業費用(公益目的・収益事業費及び管理費、以下同じ)は、材料費で前年度比231百万円増となったものの、給与費で310百万円減、委託費で51百万円減、設備関係費で332百万円減(うち減価償却費の減少260百万円)となり、その他の費用を含めた医業費用総額で前年度比638百万円減の19,298百万円となり、その結果、医業収支は前年度比1,407百万円改善の96百万円の黒字計上となりました。

また、法人税等税引後の当期収益費用差額(当期純利益)は357百万円の黒字計上となりました(指定純資産からの振替額12百万円を含む)。

② 純資産

上記2025年度収支の結果、純資産は前年度比345百万円増の4,354百万円となりました。

③ キャッシュ・フロー

2025年度キャッシュ・フローは、「事業活動」によるキャッシュ・インが2,335百万円と前年度比2,246百万円の増加となりました。主な要因としては、税引前当期収益費用差額の増加(前年度比1,442百万円の増加)であるが、医業によるキャッシュ・インは引き続き堅調に推移しております。

一方、「投資活動」は、323百万円のキャッシュ・アウトとなっております(前年度は、加古川病院の事業譲渡が影響し、382百万円のキャッシュ・イン)。

また、「財務活動」は、新規借入れを行わなかった一方で、長期借入金の約定返済(1,644百万円)を行った結果、トータル1,716百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

以上の結果、2025年度の「現金及び現金同等物の増減」はプラス294百万円となりました。

(2) 各施設収支概況

① 甲南医療センター

2019年10月に六甲アイランド甲南病院との間で行った医療機能の再編により入院病床343床の稼働となった甲南医療センターは、その後の東館(旧新館)の改修等により2022年2月にⅡ期工事が完工し、461床の急性期病床を有する総合病院となりました。また、2020年7月には兵庫県より地域医療支援病院の承認を受け、2025年度の紹介率は78%(前年度実績81%)、逆紹介率は87%(同98%)となっております。また不断の救急医療にも取り組み、2025年度救急搬送受入件数は6,162件(前年度実績7,034件)となっております。

上記の経営環境において、甲南医療センターの今年度経常収支は、2024年度に取り組んだ入院単価の向上策(ICU上位基準の取得、HCU開設及び急性期充実体制加算の取得)により入院収入が大幅に増加、また、職員数の適正化、給与の適正化等構造改革に着手したことによる費用の削減が大きく影響し、320百万円(対前年度比1,289百万円増)の黒字計上となりました。

その内訳として、入院診療収入は患者数が一日あたり2.5名増加、また、診療単価(患者一名一日あたり、以下同じ)も3,307円上昇したことにより前年度比508百万円増の11,126百万円となりました。また、外来診療収入は、患者数が一日あたり22.7名増加したことに加え、診療単価も444円上昇したことにより前年度比173百万円増の3,660百万円。室料差額・その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比723百万円増の15,219百万円の計上となりました。

一方、医業費用は、材料費が増加(前年度比248百万円の増加)となったものの、構造改革に取組んだことにより給与費負担額の減少(前年度比242百万円の減)、高額医療機器の耐用年数経過による減価償却費の減少(前年度比マイナス268百万円)を含め前年度より440百万円減の15,064百万円となり、医業収支は前年度より1,163百万円改善の155百万円の黒字計上となりました。

②六甲アイランド甲南病院

2019年10月に甲南医療センターとの間で行った医療機能の再編により、入院病床198床の稼働となった六甲アイランド甲南病院は、同月より2階をリハビリテーションセンターとして、また5階と6階を回復期リハビリテーション病棟に改修する工事に入り、2020年3月末には同工事完成、その後、同年9月に急性期一般病床(10対1)34床、地域包括ケア病床104床、回復期リハビリテーション病床60床として入院医療を提供しております。

上記の経営環境において、六甲アイランド甲南病院の今年度経常収支は、入院患者数が堅調に推移し、LED化やその他費用の見直しによる削減により、前年度比305百万円増益の58百万円の黒字計上となりました。

その内訳として、入院診療収入は入院患者数の増加により、前年度比75百万円増の2,557百万円となりました。一方、外来診療収入は診療単価が上昇したが、一日当たりの患者数が減少(▲6.5名)したことが要因となり、前年度比10百万円減の739百万円となりましたが、室料差額その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比85百万円増の3,567百万円の計上となりました。

一方、医業費用は前年度より190百万円減の3,569百万円となり、医業収支は前年度より275百万円改善のマイナス2百万円となりました。

③甲南介護老人保健施設

甲南介護老人保健施設の当年度経常収支は、入所者数(短期入所者数含む)が前年度より減少したことにより、医業収入が前年度より33百万円減の488百万円となった一方で、医業費用が前年度より13百万円増加となり、経常収支は前年度より46百万円減のマイナス60百万円の計上となりました。

④甲南訪問看護ステーション

甲南訪問看護ステーションの当年度経常収入は前年度より5百万円減少の121百万円となった一方で、給与費が前年度より10百万円の減少となり、医業収支は前年度より4百万円増の15百万円、経常収支は前年度より5百万円増の16百万円の計上となりました。

3. 附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はございません。

【決算概要表】

【財産の状況】

(百万円<単位未満切捨>)

事業年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
【資産の部】					
流動資産	7,630	8,266	7,399	5,919	6,132
現金預金	(4,198)	(4,030)	(3,727)	(2,577)	(2,872)
固定資産	25,328	26,522	25,132	22,853	21,297
有形固定資産					18,329
無形固定資産					1,889
その他固定資産					1,079
<基本財産>	8,400	14,886	14,555	13,683	
<特定資産>	329	2	1	0	
<その他固定資産>	16,599	11,633	10,575	9,169	
土地（うち書き、以下同じ）	(2,260)	(2,260)	(2,260)	(1,811)	(1,811)
建物・構築物	(16,129)	(27,930)	(28,018)	(27,517)	(27,535)
建設仮勘定	(10,628)	(12)	(0)	(0)	(0)
医療器械備品	(7,338)	(7,329)	(7,893)	(7,070)	(6,988)
借地権	(1,122)	(1,856)	(1,856)	(1,856)	(1,856)
償却累計額	(△15,075)	(△16,626)	(△18,423)	(△18,672)	(△19,982)
資産合計	32,959	34,788	32,531	28,772	27,429
【負債の部】					
流動負債	7,674	5,712	5,849	4,908	4,839
固定負債	22,489	24,049	21,536	19,854	18,236
短期借入金	(1,500)	(750)	(0)	(0)	(0)
長期借入金 (一年内返済額を含む)	(22,022)	(22,661)	(20,249)	(18,696)	(17,052)
負債合計	30,164	29,761	27,385	24,763	23,075
【純資産の部<正味財産>】					
純資産<正味財産>	2,794	5,027	5,146	4,009	4,354
指定純資産<指定正味財産>	1,476	1,502	1,488	1,446	1,434
一般純資産<一般正味財産>	1,318	3,524	3,657	2,563	2,920
純資産<正味財産>合計	2,794	5,027	5,146	4,009	4,354

(注) 科目欄の< >書きは旧基準での科目名である。

甲南加古川病院事業譲渡による資産の減少額=999百万円(2024年度)

【収支の状況】

(百万円<単位未満切捨>)

事業年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
適用会計基準(公益会計基準)	旧基準				新基準
経常収益	20,362	22,710	22,123	18,970	19,913
公益目的事業収益					18,906
収益事業収益					516
医業収入	(18,621)	(19,175)	(20,080)	(18,623)	(19,394)
入院診療収益(室料差額含む)	(13,094)	(13,582)	(14,283)	(13,584)	(14,203)
外来診療収益	(4,692)	(4,832)	(5,009)	(4,237)	(4,399)
老人保健施設収益	(506)	(437)	(461)	(510)	(479)
訪問看護収益等	(149)	(169)	(154)	(125)	(120)
賃貸事業等収益	(129)	(129)	(143)	(82)	(28)
運営補助金・施設補助金収入	1,443	3,238	1,595	63	303
コロナ関連補助金収入 (休床・空床補償)	(764)	(2,543)	(1,359)	(2)	
コロナ関連補助金収入 (上記以外)	(603)	(605)	(97)	(1)	
国補正予算関連補助金 (物価上昇他)					(212)
寄附金収入	41	36	140	28	26
その他収益	126	130	164	172	160
経常費用	19,465	20,485	21,742	20,168	19,552
<事業費>	19,395	20,421	21,682	20,116	
公益目的事業費					18,956
収益事業費					560
管理費	69	63	59	52	36
材料費	(3,948)	(4,201)	(4,615)	(4,100)	(4,331)
給与費	(9,627)	(9,902)	(10,291)	(9,677)	(9,367)
委託費	(1,488)	(1,532)	(1,595)	(1,501)	(1,450)
設備関係費	(1,979)	(2,368)	(2,607)	(2,523)	(2,191)
研究研修費	(27)	(30)	(35)	(36)	(37)
その他医業関係費用	(1,950)	(2,208)	(2,335)	(2,097)	(1,920)
医業外費用	(444)	(241)	(261)	(231)	(253)
経常収支	897	2,225	381	△1,198	360
(医業収支)	(△399)	(△1,068)	(△1,400)	(△1,312)	(250)
その他収益<経常外収入>	7	1	2	242	0
その他費用<経常外費用>	1	1	229	127	0
税引前当期収益費用差額 <税引前一般正味財産増減>	902	2,226	154	△1,082	360
法人税等	23	19	21	11	2
当期収益費用差額<一般正味財産増減>	879	2,206	132	△1,093	357

(注) 科目欄の< >書きは旧基準での科目名である。

【キャッシュ・フローの状況】

(百万円<単位未満切捨>)

事業年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
事業活動によるキャッシュ・フロー	2,341	3,853	3,542	88	2,335
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 401	△ 3,833	△ 579	382	△ 323
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 511	△ 187	△ 3,235	△ 1,621	△ 1,716
現金及び現金同等物の増減	1,428	△ 167	△ 272	△ 1,150	294

【施設別収支の状況】

(百万円<単位未満切捨>)

事業年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
甲南医療センター	医業収入	12,123	13,013	13,876	14,496	15,219
	(入院診療収入)	(8,451)	(9,314)	(9,882)	(10,618)	(11,126)
	[入院患者数<人:1日平均>]	315	336	354	357	359
	[入院単価(円)]	73,582	75,840	76,132	81,570	84,877
	(外来診療収入)	(3,172)	(3,369)	(3,615)	(3,487)	(3,660)
	[外来患者数<人:1日平均>]	798	836	852	832	855
	[外来単価(円)]	16,425	16,582	17,460	17,255	17,699
	医業費用	12,488	13,721	14,937	15,506	15,064
	医業収支	△ 364	△ 708	△ 1,061	△ 1,010	155
	医業外収支(補助金を除く)	△ 201	6	25	△ 12	△ 95
	補助金収入	1,390	1,812	927	52	260
	経常収支	823	1,110	△ 108	△ 969	320
六甲アイランド甲南病院	医業収入	3,606	3,299	3,401	3,482	3,567
	(入院診療収入)	(2,478)	(2,205)	(2,352)	(2,482)	(2,557)
	[入院患者数<人:1日平均>]	179	154	172	180	186
	[入院単価(円)]	37,968	39,152	37,211	37,745	37,725
	(外来診療収入)	(889)	(856)	(806)	(749)	(739)
	[外来患者数<人:1日平均>]	318	296	279	254	247
	[外来単価(円)]	11,538	11,883	11,879	12,170	12,369
	医業費用	3,641	3,476	3,555	3,761	3,569
	医業収支	△ 35	△ 177	△ 154	△ 278	△ 2
	医業外収支(補助金を除く)	2	6	18	22	20
	補助金収入	37	729	337	7	40
	経常収支	5	558	201	△ 247	58
甲南加古川病院	医業収入	2,249	2,275	2,201		
	(入院診療収入)	(1,570)	(1,616)	(1,566)		
	[入院患者数<人:1日平均>]	104	89	92		
	[入院単価(円)]	41,434	49,672	46,199		
	(外来診療収入)	(630)	(606)	(587)		
	[外来患者数<人:1日平均>]	168	162	157		
	[外来単価(円)]	15,460	15,340	15,321		
	医業費用	2,283	2,406	2,363		
	医業収支	△ 34	△ 131	△ 162		
	医業外収支(補助金を除く)	△ 4	△ 2	△ 4		
	補助金収入	11	670	301		
	経常収支	△ 27	536	134		

【施設別収支の状況】

(百万円<単位未満切捨>)

事業年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
甲南介護老人保健施設	医業収入	517	445	473	521	488
	(老人保健施設収入)	(506)	(437)	(461)	(510)	(479)
	[入所患者数<人:1日平均>]	77	66	72	73	66
	[入所単価(円)]	15,710	15,722	15,545	16,694	16,792
	[通所患者数<人:1日平均>]	24	20	17	22	23
	[通所単価(円)]	11,320	10,457	11,136	11,284	10,923
	医業費用	499	522	519	549	560
	医業収支	18	△ 76	△ 46	△ 28	△ 72
	医業外収支(補助金を除く)	10	9	10	9	10
	補助金収入	4	24	27	2	2
	経常収支	32	△ 42	△ 8	△ 15	△ 60
甲南訪問看護ステーション	医業収入	124	141	128	126	120
	(訪問看護収入)	(65)	(81)	(69)	(67)	(73)
	(Medikare収入)	(46)	(46)	(46)	(46)	(46)
	(居宅介護支援収入)	(12)	(14)	(13)	(12)	(0)
	医業費用	108	116	104	116	105
	医業収支	16	25	23	9	15
	医業外収支(補助金を除く)	0	0	0	0	0
	補助金収入	0	0	0	0	1
	経常収支	16	25	24	9	16

【設備投資の状況(2025年度 <10百万円以上>)】

(百万円<単位未満切捨>)

資産区分	内 容	金 額	設 置 場 所
医療機器	眼底カメラ(Optos California RGB FAモデル)	27	甲南医療センター
医療機器	超音波画像診断装置(Aplio i1700/LX)	17	甲南医療センター